

(19) 日本国特許庁 (J P)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-154112

(P2000-154112A)

(43) 公開日 平成12年6月6日(2000.6.6)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード <sup>*</sup> (参考)
A 6 1 K	7/00	A 6 1 K	7/00 C
	7/02		7/02 A
// A 6 1 K	7/06		7/06
	7/075		7/075
	7/08		7/08

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全 34 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平11-146974	(71) 出願人	000000066 味の素株式会社 東京都中央区京橋1丁目15番1号
(22) 出願日	平成11年5月26日(1999.5.26)	(72) 発明者	石井 博治 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社アミノサイエンス研究所内
(31) 優先権主張番号	特願平10-150945	(72) 発明者	弓岡 良輔 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社アミノサイエンス研究所内
(32) 優先日	平成10年6月1日(1998.6.1)	(72) 発明者	小山 匡子 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社アミノサイエンス研究所内
(33) 優先権主張国	日本 (J P)	(74) 代理人	100064687 弁理士 霜越 正夫 (外1名)

(54) 【発明の名称】 新規化粧料組成物

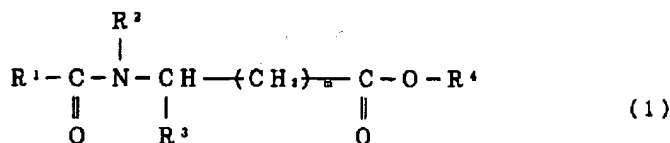
(57) 【要約】

【課題】 頭髮に対して使用時および乾燥後にべたつき感がなく、頭髮をなめらかにし、乾燥後の櫛通り性等のコンディショニング効果に優れ、また皮膚に対して、使用時および使用後のべたつき感、およびつっぱり感がないのに加えて、すべり、のび、なじみ、およびなめらかさの良好な化粧料組成物を提供すること。

【解決手段】 炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル中性アミノ酸のエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル中性アミノ酸エステル(成分A)又は/及び炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステル(成分B)並びに界面活性剤(成分C)を有効成分として含有することを特徴とする新規化粧料組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル中性アミノ酸のエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル中性アミノ酸エステル（成分A）又は／及び炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステルであ



（式中、R<sup>1</sup>は炭素原子数5～21の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を、R<sup>2</sup>は水素原子又は炭素原子数1～3の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を、R<sup>3</sup>は水素原子又は炭素原子数1～4の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を、R<sup>4</sup>は炭素原子数1～10の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基を、そしてmは0～2

って、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステル（成分B）並びに界面活性剤（成分C）を有効成分として含有することを特徴とする新規化粧料組成物。

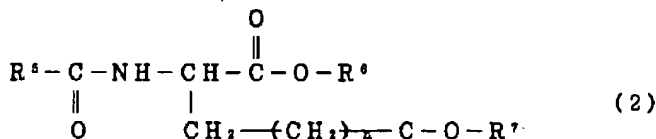
【請求項2】N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルが下記一般式（1）で表されるものであることを特徴とする請求項1記載の新規化粧料組成物。

【化1】

の整数を示す。）

【請求項3】N-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルが下記一般式（2）で表されるものであることを特徴とする請求項1または2記載の新規化粧料組成物。

【化2】



（式中、R<sup>5</sup>は炭素原子数5～21の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基を、R<sup>6</sup>及びR<sup>7</sup>はそれぞれ独立に炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を、そしてnは0又は1の整数を示す。）

【請求項4】N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルを構成する中性アミノ酸がザルコシン、アラニン、グリシンまたはN-メチル-β-アラニンから選ばれる中性アミノ酸であることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の新規化粧料組成物。

【請求項5】N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルのアルコール部位がイソプロピル基であることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載の新規化粧料組成物。

【請求項6】N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルのアシル基がラウロイル基であることを特徴とする請求項1～5のいずれかに記載の新規化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、新規化粧料組成物、更に詳しくはN-長鎖アシル中性アミノ酸エステル又は／及びN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステル並びに界面活性剤を有効成分として含有することを特徴とする新規化粧料組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】化粧料においては、洗浄性、乳化、可溶化、浸透、ぬれ、分散、保湿、殺菌、潤沢、帯電防止、消泡等の観点から界面活性剤が汎用される。また、化粧料に配合される成分の結合剤、エモリエント剤、剤型を保つといった観点から油性原料が汎用される。従来使用されている油相原料としては流動パラフィン等の鉱物油やミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル等の脂肪酸エステルが挙げられるが、べたつき感があり、皮膚に対するのび、なじみのよさ、なめらかさ等の使用感、頭髮に対して使用時および乾燥後にべたつき感がなく、頭髮をなめらかにし、乾燥後の櫛通り性等のコンディショニング効果において十分なものとは言えなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前項記載の従来技術の背景下に、本発明の目的は、頭髮に対して使用時および乾燥後にべたつき感がなく、頭髮をなめらかにし、乾燥後の櫛通り性等のコンディショニング効果に優れ、また皮膚に対して、使用時および使用後のべたつき感、つっぱり感がないのに加えて、すべり、のび、なじみ、なめらかさの良好な化粧料組成物を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者は、前項記載の目的を達成すべく鋭意研究の結果、界面活性剤に特定の

N-長鎖アシル中性又は酸性アミノ酸エステルを併用することで前記問題点の解消され得ることを見出し、このような知見に基いて本発明を完成するに至った。

【0005】すなわち、本発明は、炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル中性アミノ酸のエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル中性アミノ酸エステル（成分A）又は／及び炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステル（成分B）並びに界面活性剤（成分C）を有効成分として含有することを特徴とする新規化粧料組成物に関する。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳細に説明する。

【0007】先ず、本発明の化粧料組成物の必須成分の一であるN-長鎖アシル中性又は酸性アミノ酸エステルについて説明する。

【0008】最初に、本発明に係わるN-長鎖アシル中性アミノ酸エステル（成分A）について詳述する。

【0009】本発明におけるN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの長鎖アシル基としては、炭素原子数6～22の直鎖または分岐鎖の飽和または不飽和のものであり、例えば、カプリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘニン酸、リノール酸、リノレイン酸、オレイン酸、イソステアリン酸、2-エチルヘキサノ酸、ヤシ油脂肪酸、牛脂脂肪酸、硬化牛脂脂肪酸等から誘導することのできるアシル基を挙げることができる。好ましいアシル基としては、カプロイル基、ラウロイル基、ミリスチル基、パルミトイル基、ステアロイル基、ベヘノイル基、ヤシ油脂肪酸アシル基

（ココイル基）、硬化牛脂脂肪酸アシル基、パーム核油脂肪酸アシル基等が挙げられる。

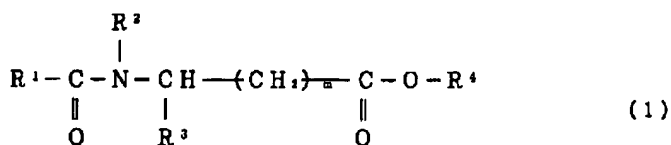
【0010】また、中性アミノ酸部位を構成する中性アミノ酸は、グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、イソロイシン、セリン、スレオニン、プロリン、β-アラニン、アミノ酪酸、ザルコシン、N-メチル-β-アラニン等の中性アミノ酸が挙げられる。好ましくは、グリシン、アラニン、β-アラニン、α-アミノ酪酸、γ-アミノ酪酸、ザルコシン及びN-メチル-β-アラニンであり、特に好ましいのはザルコシン、アラニン、グリシン及びN-メチル-β-アラニンである。なお、これらのアミノ酸は、光学活性体であれ、ラセミ体であれ、いずれでもよい。

【0011】また、アルコール部位を構成する炭化水素基は、炭素原子数が1～10の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基であるが、アルキル基のものが好ましく、例えばメタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、ブタノール、t-ブタノール、イソブタノール、3-メチル-1-ブタノール、2-メチル-1-ブタノール、フーゼル油、ペンタノール、ヘキサノール、シクロヘキサノール、オクタノール、2-エチルヘキサノール、デカノールなどから誘導することのできる炭化水素基を挙げることができる。また、使用感等の観点から炭素原子数2～8の分岐鎖又は直鎖のアルキル基が好ましく、更に炭素原子数2～5の分岐鎖又は直鎖のアルキル基がより好ましい。また、使用感等に加え加水分解安定性の面から、炭素原子数3～5の分岐鎖のアルキル基が特に好ましく、例えばイソプロピル基、t-ブチル基、イソブチル基などが挙げられる。このうち、最も好ましいのはイソプロピル基である。

【0012】本発明におけるN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの好ましい例を一般式で示すと、下記一般式（1）で表されるものを挙げることができる。

【0013】

【化3】



【0014】（式中、R<sup>1</sup>は炭素原子数5～21の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を、R<sup>2</sup>は水素原子又は炭素原子数1～3の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を、R<sup>3</sup>は水素原子又は炭素原子数1～4の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を、R<sup>4</sup>は炭素原子数1～10の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基を、そしてmは0～2の整数を示す。）

【0015】一般式（1）中、アシル基（R<sup>1</sup>-CO-）及びアルコール部位を構成する炭化水素基のR<sup>4</sup>として好ましいものは前述した通りである。また、アミノ

酸部位として好ましいものも前述した通りである。

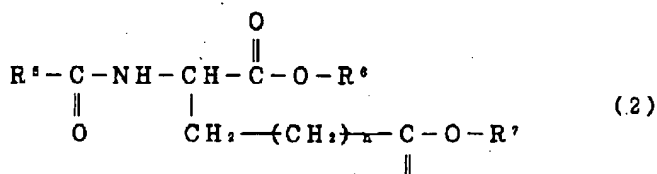
【0016】本発明におけるN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルは、例えば、N-長鎖アシル中性アミノ酸とアルコールとを常圧または減圧下で加熱脱水縮合エステル化することにより得ることができる。また、トルエンなどの溶媒を用いた共沸脱水縮合反応やエステル交換反応によることもできる。このようなN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの合成に使用するN-長鎖アシル中性アミノ酸やアルコールは、必ずしも単一化合物である必要はなく、アシル基や中性アミノ酸の種類の異なるN-

長鎖アシル中性アミノ酸の混合物であってもよく、鎖長等の異なるアルコールの混合物であってもよい。

【0017】因みに、N-長鎖アシル中性アミノ酸は、例えば塩基性触媒下に長鎖脂肪酸ハライドとアミノ酸とを反応させるいわゆるショッテン・パウマン反応（特公昭51-38681号公報など参照）等の公知の方法により製造することができる。

【0018】次に、N-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステル（成分B）について詳述する。

【0019】本発明におけるN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルの長鎖アシル基は、上に説明したN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの長鎖アシル基と同じであり、好ましいアシル基も同じである。



【0024】（式中、R<sup>5</sup>は炭素原子数5～21の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基を、R<sup>6</sup>及びR<sup>7</sup>はそれぞれ独立に炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を、そしてnは0又は1の整数を示す。）

【0025】本発明におけるN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルは、例えば、N-長鎖アシル酸性アミノ酸とアルコールとを常圧又は減圧下で加熱脱水縮合エステル化することにより得ることができる。また、トルエンなどを溶媒として用いた共沸脱水縮合反応やエステル交換反応によることもできる。このようなN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルの合成に使用するN-長鎖アシル酸性アミノ酸やアルコールは、必ずしも単一化合物である必要はなく、アシル基や酸性アミノ酸の種類の異なるN-長鎖アシル酸性アミノ酸の混合物であってもよく、鎖長等の異なるアルコールの混合物であってもよい。

【0026】因みに、N-長鎖アシル酸性アミノ酸は、例えば塩基性触媒下に長鎖脂肪酸ハライドとアミノ酸とを反応させるいわゆるショッテン・パウマン反応（特公昭46-8685、特公昭48-35058、特公昭51-38681号公報など参照）等の公知の方法により製造することができる。

【0027】これらのN-長鎖アシルアミノ酸エステルは、皮膚や粘膜に対する刺激性が低く、また皮膚へのびのよさ、なじみのよさ、なめらかさといった使用感にも優れることから特に化粧料用の油性原料として用いるのに優れたものである。特に、N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルは油性原料に特有の不快な油性感、べたつき感がなく、さっぱりあるいはさらさらした軽い感触に優れており、化粧料に用いる上でN-長鎖アシル酸性ア

【0020】また、酸性アミノ酸部位を構成する酸性アミノ酸は、グルタミン酸、アスパラギン酸等が挙げられる。特に好ましいのはグルタミン酸である。なお、これらのアミノ酸は、光学活性体でもラセミ体でも、いずれでもよい。

【0021】また、アルコール部位を構成する炭化水素基は、先に説明したN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの場合と同じであり、好ましいものも同じである。

【0022】本発明におけるN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルの好ましい例を一般式で示すと、下記一般式（2）で表されるものを挙げるることができる。

【0023】

【化4】

ミ〇酸ジエステルよりも好ましい。

【0028】次に、成分Cの界面活性剤について説明する。

【0029】洗浄性、起泡性、乳化安定性を付与する観点から、アニオン界面活性剤が用いられ、例としてはカルボン酸型、硫酸エステル型、スルホン酸型、リン酸エステル型に大別でき、親水部（親水基）はナトリウム塩、カリウム塩、トリエタノールアミン塩、塩基性アミノ酸塩等のような可溶性塩として使用される。親油部（親油基）は種々なものが挙げられるが、アルキル基、イソアルキル基等がおもなもので、加えて構造中に酸アミド結合、エステル結合、エーテル結合などを含むものがある。

【0030】洗浄性、乳化・可溶化安定性、毛髪の手触り、帯電防止性を付与する観点から、カチオン界面活性剤が用いられ、例としては第4級アンモニウム塩、アミン誘導体、塩基性アミノ酸誘導体等が挙げられる。

【0031】洗浄性、殺菌力、静菌力、起泡性、柔軟性を付与する観点から、両性界面活性剤が用いられ、例としてはアルキルアミノ酢酸ベタイン型、アルキルアミドジメリルアミノ酢酸ベタイン型、アルキル-N-カルボシキ-N-ヒドロキシミダゾリニウムベタイン型等が挙げられる。

【0032】ぬれ、分散、浸透性、乳化・可溶化力を付与する観点から、ノニオン界面活性剤が用いられ、例としてはポリオキシエチレン型、多価アルコールエステル型、エチレンオキシド・プロピレンオキシドブロック共重合型等が挙げられ、構造中に水酸基、エーテル結合、酸アミド結合、エステル結合等を含むものがある。親油基はアニオン性界面活性剤とほぼ同じである。

【0033】なお、界面活性剤が塩の形態の場合、その

ような塩としては、例えば、塩酸塩、臭化水素酸塩、硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩、炭酸塩などの無機酸塩、並びに、酢酸塩、クエン酸塩、乳酸塩、りんご酸塩、p-ト、ルエンスルホン酸塩、酒石酸塩、グルタミン酸塩およびその誘導体、アスパラギン酸塩及びその誘導体、グリコール酸塩、ピロリドンカルボン酸塩などの有機酸塩、等を挙げることができる。

【0034】以上に述べた界面活性剤を具体的に例示する。

【0035】アニオン界面活性剤の例としては、ラウリル硫酸塩、ミリスチル硫酸塩、セチル硫酸塩、ステアリル硫酸塩、オレイル硫酸塩等のアルキル硫酸塩、ラウリルリン酸等のアルキルリン酸およびその塩、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸塩、ポリオキシエチレンミリスチルエーテル硫酸塩等のポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル硫酸塩、ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸塩、ポリオキシエチレントリデシルエーテル酢酸塩等のポリオキシエチレンアルキルカルボン酸塩、オクチルフェノキシジエトキシエチルスルホン酸塩、ドデシルベンゼンスルホン酸塩、テトラデセンスルホン酸塩、スルホコハク酸ジオクチル塩、スルホコハク酸ラウリル塩、ポリオキシエチレンスルホコハク酸ラウリル塩、スルホコハク酸ポリオキシエチレンモノオレイルアミド塩、オレイン酸アミドスルホコハク酸塩、ラウロイルザルコシン、オレイルザルコシン、ヤシ油脂肪酸ザルコシン等のアルキルザルコシンおよびその塩、N-アルキル-N-メチル-β-アラニンおよびその塩、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテルリン酸およびその塩、ラウリン酸塩、ミリスチン酸塩、パルミチン酸塩、オレイン酸塩、ヤシ油脂肪酸塩、ステアリン酸塩等の高級脂肪酸塩、ヤシ油脂肪酸エチルエステルスルホン酸塩、N-ヤシ油脂肪酸-グルタミン酸塩、N-ラウロイル-グルタミン酸塩、N-ミリスチル-グルタミン酸塩、N-ヤシ油脂肪酸-アスパラギン酸塩、N-ヤシ油脂肪酸-グリシン塩、N-ヤシ油脂肪酸-アラニン塩等のN-アシル-アミノ酸塩等が挙げられる（塩としてはナトリウム、マグネシウム、カリウム、アンモニウム、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、アルギニン、リジン塩等が挙げられる）。

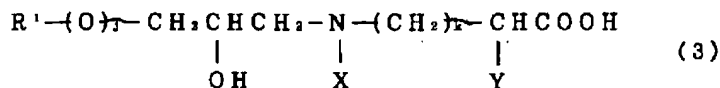
【0036】カチオン界面活性剤の例としては、塩化ラウリルトリメチルアンモニウム、塩化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化ベヘニルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化ミリスチルジメチルベンジルアンモニウム、塩化ステアリルジメチルベンジルアンモニウム、塩化ジココイルジメチルアンモニウム、塩化ジステアリルジメチルアンモニウム、塩化ジ（ポリオキシエチレン）オレイルメチルアンモニウム、塩化トリ（ポリオキ

シエチレン）ステアリルアンモニウム、塩化ポリオキシプロピレンメチルジエチルアンモニウム、臭化ラウリルトリメチルアンモニウム、臭化セチルトリメチルアンモニウム、ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド、ステアリン酸ジエチルアミノプロピルアミド、ステアリン酸ジメチルアミノプロピルアミド、ベヘン酸ジエチルアミノエチルアミド、ベヘン酸ジエチルアミノプロピルアミド、ベヘン酸ジメチルアミノプロピルアミド、ミリスチン酸ジエチルアミノエチルアミド、ミリスチン酸ジエチルアミノプロピルアミド、ミリスチン酸ジメチルアミノプロピルアミド、パルミチン酸ジエチルアミノエチルアミド、パルミチン酸ジエチルアミノプロピルアミド、パルミチン酸ジメチルアミノプロピルアミド、ラウリン酸ジエチルアミノエチルアミド、ラウリン酸ジメチルアミノプロピルアミド、N-ヤシ油脂肪酸アシル-L-アルギニンエチル、N-ラウロイル-L-アルギニンエチル、N-ミリスチル-L-アルギニンエチル、N-パルミトイル-L-アルギニンエチル、N-ステアロイル-L-アルギニンエチル、N-ヤシ油脂肪酸アシル-L-アルギニンプロピル、N-ラウロイル-L-アルギニンプロピル、N-ミリスチル-L-アルギニンプロピル、N-パルミトイル-L-アルギニンプロピル、N-ステアロイル-L-アルギニンプロピル、N-ヤシ油脂肪酸アシル-L-アルギニンブチル、N-ラウロイル-L-アルギニンブチル、N-ミリスチル-L-アルギニンブチル、N-パルミトイル-L-アルギニンブチル、N-ステアロイル-L-アルギニンブチル、臭化アルキルイソキノリニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化ラウリルピリジニウム、ラウリルイソキノリニウムサッカリン、ステアリルトリメチルアンモニウムサッカリン、ポリ塩化ジメチルメチレンピレジニウム、エチル硫酸ラノリン脂肪酸アミノプロピルエチルジメチルアンモニウム、塩化ポリオキシプロピレンメチルジエチルアンモニウム等が挙げられる。

【0037】両性活性剤の例としては、カルボベタイン型両性界面活性剤、アミドベタイン型両性界面活性剤、スルホベタイン型両性界面活性剤、ヒドロキシスルホベタイン型両性界面活性剤、アミドスルホベタイン型両性界面活性剤、ホスホベタイン型両性界面活性剤、イミダゾリン型両性界面活性剤等の両性界面活性剤が挙げられ、より具体的に例示すれば、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ヤシ油アルキルベタイン、ステアリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ステアリルジヒドロキシエチルベタイン、ラウリン酸アミドプロピルベタイン、ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン液、パーム核油脂肪酸アミドプロピルベタイン液、リシノレイン酸アミドプロピルベタイン液、N-ヤシ油脂肪酸アシル-N-カルボキシエチル-N-ヒドロキシエチルエチレンジアミン塩、パーム核油脂肪酸アシル-N-カルボキシエチル-

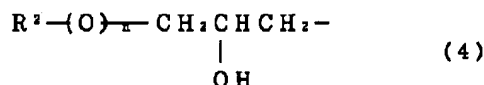
N-ヒドロキシエチルエチレンジアミン塩、2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリウムベタイン、ウンデシル-N-カルボキシメチルイミダリニウムベタイン、塩酸アルキルジアミノエチルグリシン液、ビス（ステアリル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリン）クロル酢酸錯体等が挙げられる。さらに、下記一般式（3）で表される塩基性アミノ酸誘導体またはその塩が挙げられる。

【0038】  
【化5】



【0039】（上記一般式（3）中、 $R^1$ は炭素原子数8～22の直鎖または分岐鎖のアルキル基またはアルケニル基を示し、 $j$ は0又は1の整数を示し、 $X$ は水素原子または下記一般式（4）で表される置換基を示し、 $k$ は0～5の整数を示し、 $k=0$ のとき $Y$ は下記一般式（5）で表される置換基を表し、そして $k=1\sim5$ の整数のとき $Y$ はアミノ基を示す。）

【0040】  
【化6】

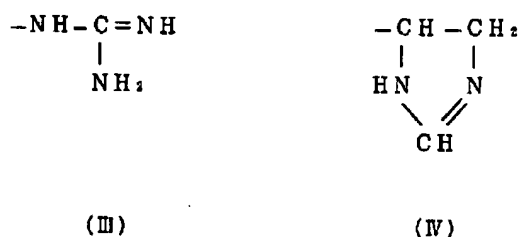


【0041】（上記一般式（4）中、 $R^2$ は $R^1$ と同一または異なって炭素原子数8～22の直鎖または分岐鎖のアルキル基またはアルケニル基を示し、そして $n$ は0又は1の整数を示す。）

【0042】  
【化7】

【0043】（上記一般式（5）中、 $m$ は1～5の整数を示し、そして $Z$ は下記（1）～（4）のいずれかの置換基を表す。）

【0044】  
【化8】



【0045】ノニオン界面活性剤の例としては、ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンミ

リスチルエーテル、ポリオキシエチレンセチルエーテル、ポリオキシエチレンイソセチルエーテル、ポリオキシエチレンセトステアリルエーテル、ポリオキシエチレンイソステアリルエーテル、ポリオキシエチレンオレイルセチルエーテル、ポリオキシエチレンオレイルエーテル、ポリオキシエチレンベヘニルエーテル、ポリオキシエチレントリデシルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルドデシルエーテル、ポリオキシエチレンブチルエーテル、ポリオキシエチレンアルキル（12～14）エーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンジノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンコレステリルエーテル、ポリオキシエチレンコレスタノールエーテル、ポリオキシエチレンフィトステロール、ポリオキシエチレンラノリンアルコール、酢酸ポリオキシエチレンラノリンアルコール、ポリオキシエチレンラノリン、ポリオキシエチレン液状ラノリン、ポリオキシエチレン還元ラノリン、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン液状ラノリン、オクタン酸ポリエチレングリコール・ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル混合物、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレンヒマシ油、モノステアリン酸ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシプロピレングリセリルエーテル、ポリオキシプロピレングリセリルエーテル、ポリオキシプロピレンジグリセリルエーテル、ポリオキシプロピレンソルビット、ポリオキシプロピレンセチルエーテル、ポリオキシプロピレンステアリルエーテル、ポリオキシプロピレンラノリンアルコールエーテル、ポリオキシプロピレン硬質ラノリン、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンラノリン、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリセリルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンセチルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンステアリルエーテル、エチレンジアミンテトラポリオキシエチレンプロピレン、モノラウリン酸ソルビタン、モノパルミチン酸ソルビタン、モノステアリン酸ソルビタン、モノイソステアリン酸ソルビタン、モノオレイン酸ソルビタン、ヤシ油脂肪酸ソルビタン、セスキイソステアリンソルビタン、セスキオレイン酸ソルビタン、ジステアリン酸ソルビタン、セスキステアリン酸ソルビタン、トリステアリン酸ソルビタン、トリオレイン酸ソルビタン、モノラウ

リン酸ポリオキシエチレンソルビタン、モノパルミチン酸ポリオキシエチレンソルビタン、モノステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン、モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン、トリステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン、トリオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン、テトラオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン、アルキル（8～16）グルコシド、セスキステアリン酸メチルグルコシド、ポリオキシエチレンオレイン酸メチルグルコシド、セスキステアリン酸ポリオキシエチレンメチルグルコシド、ジステアリン酸ポリオキシエチレンメチルグルコシド、ポリオキシプロピレンメチルグルコシド、ジステアリン酸ポリオキシエチレングルコシド、モノステアリン酸エチレングリコール、ジステアリン酸エチレングリコール、ジラウリン酸エチレングリコール、ラウリン酸プロピレングリコール、自己乳化型ステアリン酸プロピレングリコール、イソステアリン酸プロピレングリコール、オレイン酸プロピレングリコール、リシノレイン酸プロピレングリコール、ジ（カプリル・カプリン酸）プロピレングリコール、ジステアリン酸プロピレングリコール、ジイソステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコール、モノラウリン酸ポリエチレングリコール、モノパルミチン酸ポリエチレングリコール、モノステアリン酸ポリエチレングリコール、モノイソステアリン酸ポリエチレングリコール、モノオレイン酸ポリエチレングリコール、ジラウリン酸ポリエチレングリコール、ジステアリン酸ポリエチレングリコール、ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール、ジオレイン酸ポリエチレングリコール、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、ラウリン酸グリセリル、ミリスチン酸グリセリル、パルミチン酸グリセリル、親油型モノステアリン酸グリセリン、自己乳化型モノステアリン酸グリセリン、イソステアリン酸グリセリル、オキシステアリン酸グリセリル、オレイン酸グリセリル、親油型オレイン酸グリセリル、リシノレイン酸グリセリル、ペヘン酸グリセリル、エルカ酸グリセリル、ヤシ油脂肪酸グリセリル、セスキオレイン酸グリセリル、ジイソステアリン酸グリセリル、トリイソパルミチン酸グリセリル、水素添加大豆油脂肪酸グリセリル、トリラウリン酸グリセリル、酢酸モノステアリン酸グリセリル、酢酸リシノレイン酸グリセリル、モノステアリン酸ポリグリセリル、モノオレイン酸ポリグリセリル、ジステアリン酸ポリグリセリル、ジイソステアリン酸ポリグリセリル、ジオレイン酸ポリグリセリル、縮合リシノレイン酸ポリグリセリル、ラウリン酸ポリオキシエチレングリセリル、モノステアリン酸ポリオキシエチレングリセリル、オレイン酸ポリオキシエチレングリセリル、ヤシ油脂肪酸ポリオキシエチレングリセリル、トリオレイン酸ポリオキシエチレングリセリル、ラウリン酸ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ミリスチン酸ポリオキシエチレンミリスチルエーテ

ル、ステアリン酸ポリオキシエチレンセチルエーテル、ステアリン酸ポリオキシエチレンステアリルエーテル、イソステアリン酸ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、トリイソステアリン酸ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン牛脂アルキルヒドロキシミリスチレンエーテル、ポリオキシエチレンアルキル（12～15）エーテル酢酸プロピル、ポリオキシエチレンアルキル（12～15）エーテル酢酸ヘキサデシル、ポリオキシエチレングジステアリン酸トリメチロールプロパン、ポリオキシエチレントリステアリン酸トリメチロールプロパン、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレントリメチロールプロパン、ジグリセリンオレイルエーテル、イソステアリン酸グリセリルエーテル、パチルアルコール、パルミチン酸アミド、ステアリン酸アミド、ポリオキシエチレンリシノレイン酸アミド、ラウリン酸エタノールアミド、パルミチン酸エタノールアミド、ステアリン酸エタノールアミド、ヤシ油脂肪酸エタノールアミド、ポリオキシエチレンラウリン酸モノエタノールアミド、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド、ラウリン酸ジエタノールアミド、ラウリン酸ミリスチン酸ジエタノールアミド、ミリスチン酸ジエタノールアミド、ステアリン酸ジエタノールアミド、オレイン酸ジエタノールアミド、イソステアリン酸ジエタノールアミド、リノール酸ジエタノールアミド、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド、パーム核油脂肪酸ジエタノールアミド、硬化牛脂油ジエタノールアミド、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド、ラウリン酸イソプロパノールアミド、オレイン酸イソプロパノールアミド、ステアリン酸ステアロイルエタノールアミド、ラウリルジメチルアミンオキシド液、ラウリルジメチルアミンオキシド液、ミリスチルジメチルアミンオキシド液、ステアリルジメチルアミンオキシド液、ヤシ油アルキルジメチルアミンオキシド液、ポリオキシエチレンヤシ油アルキルジメチルアミンオキシド、ジヒドロキシエチルラウリルアミンオキシド液、ラウロイルグルタミン酸ジオクチルドデシル、ステアロイルグルタミン酸ジオクチルドデシル、ラウロイルグルタミン酸ポリオキシエチレンオクチルドデシルエーテルジエステル、ラウロイルグルタミン酸ジポリオキシエチレンステアリルエーテル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油ピログルタミン酸イソステアリン酸ジエステル、ポリオキシエチレングリセリルピログルタミン酸イソステアリン酸ジエステル等が挙げられる。

【0046】本発明の新規化粧料組成物には、上に説明した成分Aおよび/または成分Bならびに成分Cに加えて、本発明の効果を阻害しない範囲で、通常使用される各種添加剤を任意成分として添加することができる。例としては、シリコーン化合物、高分子物質（高分子化合物）、脂肪酸、アルコール類、多価アルコール、抽出物、アミノ酸、核酸、ビタミン、酵素、抗炎症剤、殺菌

剤、防腐剤、抗酸化剤、紫外線吸収剤、キレート剤、制汗剤、顔料、色素、酸化染料、有機及び無機粉体、pH調整剤、パール化剤、湿潤剤、保湿剤等の化粧品原料基準、化粧品種別配合成分規格、医薬部外品原料規格、日本薬局方、食品添加物公定書記載の原料等が挙げられる。

【0047】シリコン化合物としては、メチルポリシロキサン、高重合メチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、アミノ変性シリコン、アルキル変性シリコン、エポキシ変性シリコン、フッ素変性シリコン、ポリエーテル変性シリコン、アルコール変性シリコン、脂肪酸変性シリコン、アクリル変性シリコンなどが挙げられ、通常化粧品に用いられるのは、粘度が5センチストークス～1000万センチストークスのものである。

【0048】メチルポリシロキサンおよび高重合メチルポリシロキサンは通常粘度が5～1000万センチストークスが使用できる。また、高重合メチルポリシロキサンは取り扱いを容易にするためにエマルジョンとして使用することもできる。

【0049】メチルフェニルポリシロキサンは通常粘度が10～1000センチストークスのものが使用できる。

【0050】環状ポリシロキサンとしては、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロペンタシロキサン、メチルポリシクロシロキサン等が挙げられる。

【0051】アミノ変性シリコンとしては、アミノエチルアミノプロピルシロキサン・ジメチルシロキサン共重合体エマルジョン等が挙げられる。

【0052】エーテル変性シリコンとしては、ジメチルシロキサン・メチル（ポリオキシエチレン）シロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチル（ポリオキシプロピレン）シロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチル（ポリオキシエチレン）シロキサン・メチル（ポリオキシプロピレン）シロキサン共重合体等が挙げられる。

【0053】その他の例としては、メチルハイドロジェンポリシロキサン、ジメチルシロキサン・メチルステアロキシシロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチルセチルオキシシロキサン共重合体、テトラデカメチルヘキサシロキサン、トリメチルシロキシケイ酸、オクタメチルトリシロキサン、シリコン樹脂、ミリスチルシリコン等が挙げられる。

【0054】また、これらをアルコキシ変性、カルボキシ変性、アルコール変性、脂肪酸変性、フッ素変性、エポキシ変性して使用することもでき、さらに2種以上のシリコンを混合あるいはエマルジョンとして使用することもできる。

【0055】これら、シリコン化合物の市販のもの

としては、ジメチルポリシロキサンでは信越化学（株）社製のKF-96Aシリーズ、KF-96Hシリーズ；メチルフェニルポリシロキサンでは信越化学（株）社製のKF-50、KF-53；環状ポリシロキサンの例としては信越化学（株）社製のKF-994、KF-995；ジメチルポリシロキサンとメチル（ポリオキシエチレン）シロキサン共重合体では信越化学（株）社製のKF-351A；トリメチルシロキシケイ酸としては信越化学（株）社製のKF-7312F、メチルハイドロジェンポリシロキサンとしては東芝シリコン（株）社製のTSF484；アミノ変性シリコンとしては東芝シリコン（株）社製のXF42-B1989；脂肪酸変性シリコンとしては東芝シリコン（株）社製のTSF410；フッ素変性シリコンとしては東芝シリコン（株）社製のFQF501；エポキシ変性シリコンとしては日本ユニカー（株）社製のFZ-3736；アルコキシ変性シリコンとしては日本ユニカー（株）社製のFZ-3722；カルボキシ変性シリコンとしては日本ユニカー（株）社製のFZ-3703、シラノール変性シリコンとしては日本ユニカー（株）社製のFZ-3122等が知られている。

【0056】本発明の化粧品組成物には、また、パーフルオロポリエーテルを配合することができる。そのようなパーフルオロポリエーテルは、通常分子量が500～20,000のものであり、市販品としてはアウジモント社製フオンブリンHCシリーズ等が挙げられる。

【0057】本発明の新規化粧品組成物は、これに毛髪のコンドিশョニング性やスタイリング性の付与、各種化粧料の粘度を調整したり、剤型を安定化したり、塗布時ののびを良くしたりする目的で高分子化合物を加えても良い。高分子化合物としては、ポリアクリル酸およびその塩（ナトリウム、カリウム、アンモニウム、トリエタノールアミン、アルギニン、リジン等）、アクリル樹脂、アクリル酸・アクリルアミド・アクリル酸エチル共重合体およびその塩等のアクリル酸誘導体；ポリグルタミン酸およびその塩；ポリアスパラギン酸およびその塩；ヒアルロン酸およびその塩；アルギン酸およびその塩；アクリル酸アルキルエステル・メタクリル酸アルキルエステル・ジアセトン・アセトンアクリルアミド・メタクリル酸共重合体およびその塩、ポリメタクリン酸およびその塩等のメタクリン酸誘導体；酢酸ビニル・クロトン酸共重合体、クロトン酸・酢酸ビニル・ネオデカン酸ビニル共重合体等のクロトン酸誘導体；メトキシエチレン無水マレイン酸共重合体、イソブチレン・マレイン酸共重合体等のマレイン酸誘導体；カルボキシメチルセルロース；カルボキシビニルポリマー、キトサン、部分加水分解キチン、キトサン・d1-ピロリドンカルボン酸塩、サクシニルキトサン、ヒドロキシプロピルキトサン等のキチン誘導体；塩化ジメチルジアリルアンモニウム・アクリルアミド共重合体、ポリ塩化ジメチルメチレ



ンペリジニウム等の塩化ジメチルジアリルアンモニウム誘導体；塩化O-〔2-ヒドロキシ-3-（トリメチルアンモニオ）プロピル〕ヒドロキシエチルセルロース、塩化O-〔2-ヒドロキシ-3-（ラウリルジメチルアンモニオ）プロピル〕ヒドロキシエチルセルロース等のカチオン化セルロース；塩化O-〔2-ヒドロキシ-3-（トリメチルアンモニオ）プロピル〕グァーガム等のカチオン化グァーガム；メタクリロイルエチルジメチルベタイン・塩化メタクリロイルエチルトリメチルアンモニウム・メタクリル酸メトキシポリエチレングリコール共重合体、メタクリロイルエチルジメチルベタイン・塩化メタクリロイルエチルトリメチルアンモニウム・メタクリル酸2-ヒドロキシエチル共重合体、ビニルピロリドン・N、N-ジメチルアミノエチルメタクリル酸共重合体ジエチル硫酸塩等のメタクリル酸誘導体；ビニルイミダゾリニウムメトクロライド・ビニルピロリドン共重合体、メチルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、エチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース等のセルロース誘導体；ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリビニルピチラル、ビニルピロリドン・スチレン共重合体、ビニルピロリドン・ヘキサデセン共重合体、酢酸ビニル・ビニルピロリドン共重合体、エイコセン・ビニルピロリドン共重合体等のビニル誘導体；アクリル酸ヒドロキシエチル・アクリル酸メトキシエチル共重合体、アクリル酸ヒドロキシエチル・アクリル酸ブチル・アクリル酸メトキシエチル共重合体、アクリル酸アミド・スチレン共重合体、アクリル酸アルキル・スチレン共重合体、アクリル酸オクチルアミド・アクリル酸エステル共重合体、アクリル酸アルキル共重合体、アクリル酸オクチルアミド・アクリル酸ヒドロキシプロピル・メタクリル酸ブチルアミノエチル共重合体等のアクリル酸誘導体；ポリエチレングリコール、高重合ポリエチレングリコール等のエチレングリコール誘導体；ポリグリセリン誘導体；ビニルメチルエーテル・マレイン酸エチル共重合体等のマレイン酸誘導体；アルギン酸プロピレングリコール；ポリアミドエピクロルヒドリン樹脂；グァーガム、ローカストビンガム、クインスシード、カラギーナン、ガラクトン、アラビアガム、トラガカントガム、ペクチン、マンナン、デンプン、キサンタンガム、デキストラン、カードラン、サクシノグルカン等の多糖類およびその誘導体；ポリオキシエチレン牛脂アルキルヒドロキシミリスチレンエーテル等の牛脂誘導体、トリイソステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン等のソルビタン誘導体；ポリオキシプロピレンメチルグルコシド、ポリオキシエチレンジオレイン酸メチルグルコシド等の糖誘導体等、アクリルアミド・アクリル酸・塩化ジメチルジアリルアンモニウム共重合体、アクリル酸・塩化ジメチルジアリルアンモニウム共重合体等の共重合体；水溶性コラーゲン、加水分解コラーゲンおよびその

誘導体（カチオン化等）、加水分解ケラチンおよびその誘導体、加水分解シルクおよびその誘導体、加水分解ゼラチンおよびその誘導体、カゼインおよびその塩、加水分解カゼインおよびその誘導体、加水分解コンキオリンおよびその誘導体、加水分解卵白およびその誘導体、大豆蛋白加水分解物およびその誘導体、加水分解小麦およびその誘導体、加水分解エラスチンおよびその誘導体、アルブミン等の蛋白あるいは加水分解蛋白およびその誘導体；サクシニル化カルボキシメチルキトサン等が挙げられる。これらの高分子化合物は単独又は2種以上を組み合わせて用いてもよい。これらの配合量は特に制限されないが通常0.01～10%の範囲で用いられる。

【0058】また、化粧品に殺菌作用を持たせるために殺菌剤を加えても良く、そのような殺菌剤としては、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、トリクロサン、トリクロロカルバン、グルコン酸クロルヘキシジン、ホルマリン、グルタルアルデヒド、クレゾール、アルキルポリアミノエチルグリシン、エタノール、イソプロパノール等が挙げられ、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、トリクロサン、エタノール、イソプロパノールが好ましい。これらの殺菌剤は単独又は2種以上を組み合わせて用いてもよい。殺菌剤の種類により適宜選択され、例えばトリクロサンおよび塩化ベンザルコニウムの場合は通常0.01～50重量%、好ましくは0.05～10重量%、さらに好ましくは0.1～5重量%、特に好ましくは0.2～1%の範囲で用いられ、エタノールは通常0.1～95重量%、好ましくは10～70重量%の範囲で使用される。

【0059】また、製品の安定性を向上させるために、金属イオン封鎖剤（キレート剤）、酸化防止剤、防腐剤を加えても良い。金属イオン封鎖剤としてはエチレンジアミン四酢酸（EDTA）、リン酸、クエン酸、L-グルタミン酸二酢酸などのアミノ酸類、アスコルビン酸、コハク酸、グルコン酸、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム等、酸化防止剤としてはトコフェノール類、ジブチルヒドロキシトルエン、ブチルヒドロキシアニソール、没食子酸エステル類、酸化防止助剤であるリン酸、アスコルビン酸、マレイン酸、マロン酸、コハク酸、フマル酸、ケファリン、ヘキサメタフォスフェイト、フィチン酸等がある。防腐剤としてはパラオキシ安息香酸エステル類、安息香酸、安息香酸塩等がある。これらの配合量は特に制限されないが通常0.0001～10%の範囲で用いられる。

【0060】本発明の化粧料組成物は、これに着色を目的に色素成分を加えても良く、そのような色素成分としてはカーボンブラック、マンゴパイオレット、バルトパイオレット、赤色201号、赤色202号、赤色204号、赤色205号、赤色220号、赤色226号、赤色228号、赤色405号、橙色203号、橙色204号、黄色205号、黄色401号、青色404号、赤色

3号、赤色104号、赤色106号、赤色227号、赤色230号、赤色401号、赤色505号、橙色205号、黄色4号、黄色5号、黄色202号、黄色203号、緑色3号、青色1号、クロロフィル、 $\beta$ -カロチン等が挙げられ、配合量は任意に決められる。

【0061】また、本発明の新規化粧品組成物は、これに保湿性を付与するために保湿剤を加えてもよく、そのような保湿剤としては、ピロリドンカルボン酸およびその塩、ヒアルロン酸およびその塩、グリセリン、1, 3-ブチレングリコール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、イソプロレングリコール、乳酸塩、部分加水分解キチン、トリメチルグリシン、ソルビトール；加水分解蛋白コラーゲン、加水分解シルク等の加水分解蛋白、ポリアスパラギン酸塩、ポリグルタミン酸塩等のポリアミノ酸塩などが挙げられ、その配合量は特に制限されないが通常0.1~20%の範囲で用いられる。

【0062】本発明の新規化粧品組成物の成分Aのエステル及び成分Bのジエステルはともにいわゆる化粧品用油性原料であるが、本発明の新規化粧品組成物は、他の油性原料を本発明の効果を損なわない範囲において任意に配合することができる。このようなものには、例えば、飽和または不飽和脂肪酸およびこれから得られる高級アルコール類、スクアラン、ヒマシ油およびその誘導体、ミツロウ、液状および精製ラノリンをふくむラノリン類およびその誘導体、コレステロールおよびその誘導体、マカデミアナッツ油、ホホバ油、カルナバロウ、ゴマ油、カカオ油、パーム油、ミンク油、木ロウ、キャンデリラロウ、鯨ロウ等の動植物由来の油性原料、パラフィン、マイクロクリスタリンワックス、流動パラフィン、ワセリン、セレシン等石油および鉱物由来の油性原料をはじめ、メチルポリシロキサン、ポリオキシエチレン・メチルポリシロキサン、ポリオキシプロピレン・メチルポリシロキサン、ポリ（オキシエチレン、オキシプロピレン）・メチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、脂肪酸変性ポリシロキサン、脂肪族アルコール変性ポリシロキサン、アミノ酸変性ポリシロキサンなどのシリコーンポリマー等のシリコン類、樹脂酸、脂肪酸エステル、ケトン類等が挙げられる。

【0063】上に説明した種々の成分を配合して本発明の化粧品組成物を作成するには、成分Aおよび/または成分Bならびに成分Cを必須成分として使用することを除いては、特別の制限はなく、従来公知の常法に準ずることができる。

【0064】本発明の化粧品組成物における成分Aおよび/または成分Bの配合量は、目的とする製品によって適宜決定され、特に制限されないが、好ましくは0.01~50重量%であり、特に好ましくは0.1~20重量%である。0.01重量%未満では本発明の効果が十分発揮できない場合がある。

【0065】本発明の化粧品組成物における成分Cの配合量は、目的とする製品によって適宜決定され、特に制限されないが、通常、アニオン界面活性剤が0.01~50重量%、カチオン界面活性剤が0.01~20重量%、両性界面活性剤が0.01~50重量%、ノニオン界面活性剤が0.01~50重量%である。

【0066】本発明の新規化粧品組成物は、その剤型には特別の制限がなく、乳化系、溶液系、可溶化系、ゲル状、粉末分散系、水-油二層系、水-油-粉末三層系等、どのような剤型であっても構わない。

【0067】本発明の新規化粧品組成物は、その用途にも特別の制限はなく、シャンプー、リンス、リンスインシャンプー、コンディショニングシャンプー、ヘアローション、ヘアコンディショナー、ヘアトリートメント、ヘアクリーム、ヘアスプレー、ヘアリキッド、ヘアワックス、ヘアウォーター、ヘアスタイリングジェル、ヘアスタイリング剤、パーマ液、ヘアカラー、酸性ヘアカラー、ヘアマニキュア、化粧水、乳液、洗顔料、口腔洗浄剤、メイク落とし、クレンジングローション、エモリエントローション、ナリッシングクリーム、エモリエントクリーム、マッサージクリーム、クレンジングクリーム、ボディシャンプー、ハンドソープ、ひげ剃り用クリーム、日焼け化粧品、デオドラントパウダー、デオドラントローション、デオドラントスプレー、メイク落としジェル、モイスチャージェル、保湿エッセンス、紫外線防止エッセンス、シェービングフォーム、白粉、ファンデーション、口紅、頬紅、アイライナー、アイシャドウ、眉墨、マスカラ、浴剤等の各種化粧品として広範に用いることができる。

【0068】

【実施例】以下、比較例および実施例により本発明を更に説明する。

【0069】比較例1および実施例1~2（クレンジングフォーム）

下記第1表に示す組成（有効成分重量%表示、総量100%）のクレンジングフォームを常法により調製し、専門パネラー5名にこれらのクレンジングフォームを使用させ、（a）使用時のべたつき感、（b）使用後のべたつき感、そして（c）使用後のつっぱり感について官能評価を行った。その結果も、同表に併示する。

【0070】ここに、官能評価は下に示す基準による平均値を算出し、平均値が1.5~2.0の場合を良好（○）、0.5~1.5未満の場合を普通（△）、1.0~0.5未満の場合を不良（×）として行った。

【0071】＜評価基準＞

（a）使用時のべたつき感

2：べたつき感がない

1：べたつき感があまりない

0：べたつき感がややある

-1：べたつき感がある

【0072】(b) 使用後のべたつき感

2:べたつき感がない

1:べたつき感があまりない

0:べたつき感がややある

-1:べたつき感がある

【0073】(c) 使用後のつっぱり感

2:つっぱり感がない

1:つっぱり感があまりない

0:つっぱり感がややある

-1:つっぱり感がある

【0074】

【表1】

第1表:クレンジングフォーム

成分	比較例1	実施例1	実施例2
成分AまたはB			
N-ラウロイルサルコシン イソプロピルエステル		2	
N-コイルグルタミン酸 イソプロピルジエステル			2
成分C			
N-ラウロイルグルタミン酸 ナトリウム	20	20	20
その他の成分			
ミリスチン酸イソプロピル	2		
1,3-ブチレングリコール	50	50	50
防腐剤	適量	適量	適量
精製水	残余	残余	残余
使用時のべたつき感	△	○	○
使用後のべたつき感	×	○	○
使用後のつっぱり感	○	○	○

【0075】第1表より、実施例は比較例に比べ、使用時および使用後のべたつき感がなく、優れていることが分かった。

【0076】比較例2および実施例3~4(リンス)

下記第2表に示す組成(有効成分重量%表示、総量100%)のリンスを常法により調製し、専門パネラー5名にこれらのリンスを使用させ、(a)乾燥後の櫛どおり、(b)乾燥前のべたつき感、(c)乾燥後のべたつき感、および(d)乾燥後のなめらかさについて官能評価を行った。その結果も、同表に併示する。

【0077】ここに、官能評価は下に示す基準による平均値を算出し、平均値が1.5~2.0の場合を非常に良好(◎)、1.0~1.5未満の場合を良好(○)、0.5~1.0未満の場合を普通(△)、そして-1~0.5未満の場合を不良(×)として行った。

【0078】<評価基準>

(a) 乾燥後の櫛どおり

2:非常に良好

1:良好

0:普通

-1:悪い

【0079】(b) 乾燥前のべたつき感

2:べたつき感がない

1:べたつき感があまりない

0:べたつき感がややある

-1:べたつき感がある

【0080】(c) 乾燥後のべたつき感

2:べたつき感がない

1:べたつき感があまりない

0:べたつき感がややある

-1:べたつき感がある

【0081】(d) 乾燥後のなめらかさ

2:非常になめらか

1:なめらか

0:普通

-1:なめらかさがない

【0082】

【表2】

第2表：リンス

成分	比較例2	実施例3	実施例4
成分AまたはB			
N-ラウロイルサルコシン イソプロピルエステル		3	
N-コイルグルタミン酸 イソプロピルジエステル			3
成分C			
塩化ステアリルトリメチル アンモニウム	2	2	2
その他の成分			
ミリスチン酸イソセチル	3		
セタノール	4	4	4
L-グルタミン酸ナトリウム	1	1	1
トリメチルグリシン	2	2	2
精製水	残余	残余	残余
櫛どおり	○	◎	◎
乾燥前のべたつき感	△	◎	◎
乾燥後のべたつき感	×	○	○
乾燥後のなめらかさ	○	◎	◎

【0083】第2表より、実施例は比較例に比べ、櫛どおり、乾燥前後のべたつき感のなさ、そして乾燥後のなめらかさに優れていることが分かった。

【0084】比較例3～5および実施例5～9（スキนครリーム）

下記第3表に示す組成（有効成分重量％表示、総量100％）のスキนครリームを常法により調製し、専門パネラー10名にこれらのスキนครリームを使用させ、

（a）べたつき感、（b）なめらかさ、（c）のびのよさ、および（d）なじみのよさについて官能評価を行った。その結果も、同表に併示する。

【0085】ここに、官能評価は下に示す基準による平均値を算出し、平均値が1.5～2.0の場合を非常に良好（◎）、1.0～1.5未満の場合を良好（○）、0.5～1.0未満の場合を普通（△）、そして-1～0.5未満の場合を不良（×）として行った。

【0086】＜評価基準＞

（a）べたつき感

2：べたつき感がない

1：べたつき感があまりない

0：べたつき感がややある

-1：べたつき感がある

【0087】（b）なめらかさ

2：非常に良好

1：良好

0：普通

-1：悪い

【0088】（c）のびの良さ

2：非常に良好

1：良好

0：普通

-1：悪い

【0089】（d）なじみのよさ

2：非常に良好

1：良好

0：普通

-1：悪い

【0090】

【表3】

第3表：スキンクリーム

成分	比較例			実施例				
	3	4	5	5	6	7	8	9
成分AまたはB								
N-ミリスチルグリシン				1				
オクチルエステル					1			
N-ステアロイルアラニン						1		
オクチルエステル							1	
N-ココイルグルタミン酸								1
イソプロピルジエステル								
N-ラウロイルグルタミン酸								0.2
イソプロピルジエステル								1
N-ラウロイルグルタミン酸- γ-ブチルジエステル								
成分C								
ソルビタンモノステアレート	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
ポリオキシエチレン(20)	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8
ソルビタンモノオレート								
ポリオキシエチレン(20)							0.2	
フィトステロール								
ポリオキシエチレン(20)		0.2			0.2			
ポリオキシプロピレン(8)								
セチルエーテル								
ポリオキシエチレン(40)	0.2			0.2				
ラノリンアルコール								
モノラウリン酸			0.2			0.2		
ヘキサグリセリル								
トリオレイン酸			0.3			0.3		
デカグリセリル								
ペンタソステアリン酸							0.2	
デカグリセリル								
モノステアリン酸							0.2	
ジグリセリル								
モノミリスチン酸グリセリル							0.2	0.2
その他の成分								
流動パラフィン	36	36	36	36	36	36	36	36
セタノール	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5
N-ラウロイル-L-リジン	1	1	1	1	1	1	1	1
ジグリセリン	0.5			0.5				
デカグリセリン		0.5			0.5			
イソブレングリコール			0.5			0.5		
精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
べたつき感の無さ	×	×	×	◎	◎	○	○	○
なめらかさ	△	△	△	◎	◎	○	○	○
のびのよさ	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎
なじみのよさ	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎

【0091】第3表より、実施例は比較例に比べ、べたつきの感のなさ、なめらかさ、のびのよさ、そしてなじみのよさに優れていることが分かった。

【0092】比較例6～8および実施例10～14（リンス）

下記第4表に示す組成（有効成分重量％表示、総量100％）のリンスを常法により調製し、専門パネラー10名に市販のシャンプーによる洗髪後、これらのリンスを使用させ、（a）塗布時のべたつき感、（b）乾燥後のべたつき感、（c）櫛通りの良さ、および（d）頭髮の滑らかさについて官能評価を行った。結果も同表に併示する。

【0093】ここに、官能評価は、下に示す基準による平均値を算出し、平均値が1.5～2.0の場合を非常に良好（◎）、1.0～1.5未満の場合を良好（○）、0.5～1.0未満の場合を普通（△）、そして-1～0.5未満の場合を不良（×）として行った。

【0094】＜評価基準＞

（a）塗布時のべたつき感

2：べたつき感がない

1：べたつき感があまりない

0：べたつき感がややある

-1：べたつき感がある

【0095】（b）乾燥後のべたつき感

2：べたつき感がない

1：べたつき感があまりない

0：べたつき感がややある

-1：べたつき感がある

【0096】（c）櫛通りの良さ

2：櫛通りが良い

1：やや櫛通りがよい

0：普通

-1：櫛通りが悪い

【0097】（d）滑らかさ

2：滑らか

1：やや滑らか

0：普通

-1：滑らかでない

【0098】

【表4】

第4表：リンス

成分	比較例			実施例						
	6	7	8	10	11	12	13	14		
本発明の成分A										
N-ラウロイルサルコシン				1						
イソプロピルエステル					1					
N-ココイルサルコシン										
イソプロピルエステル						1				
N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンイソプロピルエステル										
N-ラウロイルアラニンイソプロピルエステル							1			
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル							1			
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル									1	
N-硬化牛脂脂肪酸アシルグルタミン酸イソプロピルジエステル										0.5
本発明の成分B										
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム(*1)	1	1		1	1	1				
臭化セチルトリメチルアンモニウム(*2)			1				1	1		
その他の成分										
セタノール	3	3	3	3	3	3	3	3		
ミリスチン酸オクチルドデシル	2	2	2	2	2	2	2	2		
メチルパラベン	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2		
Ne-ラウロイル-L-リジン (*3)	1	1	1	1	1	1	1	1		
水添大豆レシチン	0.5	1		0.5	1					
乳酸ナトリウム						0.5				
りんご酸							0.5			
グリコール酸ナトリウム			0.5						0.5	
カルボキシメチルデキストランナトリウム			0.2						0.2	
カラギーナン			0.1						0.1	
ローズヒップ油			0.1			0.1	0.1	0.1		
精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
塗布時のべたつき感	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	○	
乾燥後のべたつき感	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	○	
歯通りの良さ	△	△	×	○	○	○	○	○	○	
滑らかさ	△	△	×	○	○	○	○	○	○	

(\*1) 花王㈱ コータミン86Pコンク

(\*2) 東邦化学 カチナールHTB-70

(\*3) 味の素㈱ アミホープLL

【0099】第4表より、実施例は比較例に比べ、塗布時のべたつきの感のなさ、乾燥後のべたつき感のなさ、そして歯どおりの良さに優れていることが分かった。

【0100】実施例15～22（ヘアシャンプー）

下記第5表にヘアシャンプーの配合例を8例掲げる。

【0101】

【表5】

第5表：ヘアシャンプー

成分	実施例							
	15	16	17	18	19	20	21	22
N-ラウロイルサルコシン イソプロピルエステル	0.5		0.5	0.5	0.5	2.0	1.0	0.5
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		0.5						
ラウリル硫酸ナトリウム	5							
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム(*1)		10						
スルホコハク酸ラウリル2ナトリウム			10					
ポリオキシエチレンアルキルスルホコハク酸 2ナトリウム(*2)				10				
ラウロイル-N-メチル-β-アラニンナトリウム					10			
ヤシ油脂肪酸アルギニン塩(*3)						10		
ヤシ油脂肪酸アシルグリシンカリウム(*4)							10	
ヤシ油脂肪酸アシル-DL-アラニントリ エタノールアミン(*5)								10
ヤシ油脂肪酸アシル-L-グルタミン酸 トリエタノールアミン(*6)	5							
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	3	3	3	3	3	3	3	3
過グリセリン	2	2	2	2	2	2	2	2
カチオン化グアガム								0.1
アスコルビン酸	0.1							
デアニン		2.0						
サルコシン			2.0					
ペパーミント油				0.2				
d1-メントール					0.2			
ベンジルニコチネート						0.2		
パンテノール							0.2	
レゾルシン								0.2
ピログルタミン酸イソプロピルエステル					2.0			
ピログルタミン酸ラウリルエステル	2							
L-グルタミン酸イソプロピルジエステル		1.0						
サルコシンイソプロピルエステル			0.1					
アラニンイソプロピルエステル		0.1						
プロピオン酸ナトリウム	0.1	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1	0.5	0.1
L-グルタミン酸					0.1			
乳酸(90%)				0.1				
DL-ピロリドンカルボン酸			0.1					0.5
クエン酸		0.1					0.5	
グリコール酸	0.1					0.5		
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 花王㈱ エマル20C

(\*3) 味の素㈱ アミノソープAB-12

(\*5) 味の素㈱ アミライトACT-12

(\*2) 東邦化学工業㈱コハクールL-300

(\*4) 味の素㈱ アミライトDCK-12

(\*6) 味の素㈱ アミソフトCT-12S

【0102】実施例23～28（ヘアシャンプー）

下記第6表にヘアシャンプーの配合例を6例掲げる。

【0103】

【表6】

第6表：ヘアシャンプー

成分	実施例					
	23	24	25	26	27	28
N-ラウロイルザルコシン	1					
イソプロピルエステル						
N-ココイルザルコシン		1				
イソプロピルエステル						
N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンイソプロピルエステル			1			
W-ヤシ油脂肪酸アシルグルタミン酸				1	1	1
イソプロピルジエステル						
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1			1		
ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド		1			1	
ココイルアルギニンエチルエステル・DL-ピロリドンカルボン酸塩(*1)			1			1
ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン(*2)	15	15	15			
2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン(*3)				15	15	15
カチオン化セルロース(*4)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
グリセリン	2	2	2	2	2	2
ポリエーテル変性シリコーン(*5)	1	1	1	1	1	1
ジベンタエリトリット脂肪酸エステル(*6)						0.3
コハク酸ポリプロピレングリコール					0.3	
オリゴエステル(*7)						
リンゴ酸ジイソステアリル				0.3		
乳酸オクチルドデシル			0.3			
アジピン酸ジ(2-ヘプチルウンデシル)		0.3				
ジカプリン酸ネオペンチルグリコール	0.3					
アルギニン塩酸塩	0.2					
L-システイン		0.2				
L-グルタミン			0.2			
リジン塩酸塩				0.2		
L-メチオニン					0.2	
L-プロリン						0.2
L-セリン						0.1
L-スレオニン						0.1
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 味の素(株) CAR

(\*2) 川研ファインケミカル(株) ソフトゾリンCPB

(\*3) 川研ファインケミカル(株) ソフトゾリンCHR

(\*4) ライオン(株) レオガードGP

(\*5) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)

(\*6) 日清製油(株) コスモール168AE

(\*7) 日清製油(株) コスモール102

【0104】実施例29～32(ヘアシャンプー)

【0105】

下記第7表にヘアシャンプーの配合例を4例掲げる。

【表7】

第7表：ヘアシャンプー

成分	実施例			
	29	30	31	32
N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンイソプロピルエステル	1	1	1	
N-ラウロイルアラニンイソプロピルエステル				1
ヤシ油アルキルベタイン(*1)	15			15
ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン(*2)		15		
2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン(*3)			15	
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1	1	1	1
グリセリン	2	2	2	2
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	3	3	3	3
水	残余	残余	残余	残余

(\*1) 日本油脂(株) アノンBF

(\*2) 川研ファインケミカル(株) ソフトゾリンCPB

(\*3) 川研ファインケミカル(株) ソフトゾリンCHR

【0106】実施例33

【0107】

下記第8表にヘアシャンプーの配合例を7例掲げる。

【表8】



第8表：ヘアシャンプー

成分	実施例							
	33	34	35	36	37	38	39	
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	1	1	1	1	1	1	1	
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1	1	1					1
ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド				1				
アルギニン誘導体(*1)					1			
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム(*2)	10	10	10	10	10	10		
N-アシルグルタミン酸トリエタノールアミン(*3)								10
ポリオキシエチレン(60)硬化ヒマシ油	1			1	1	1	1	
POR(40)硬化ヒマシ油		1						
ピログルタミン酸イソステアリン酸ジエステル			3					
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド								
カチオン化セルロース(*4)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	
グリセリン	2	2	2	2	2	2	2	
ポリエーテル変性シリコーン(*5)	1	1	1	1	1	1	1	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 味の素 味素

(\*2) 花王 花王

(\*3) 味の素 アミソフトCT-12S

(\*4) ライオン 雷ガードGP

(\*5) 信越化学工業 KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0108】実施例40～48 (ヘアシャンプー)

【0109】

下記第9表にヘアシャンプーの配合例を9例掲げる。

【表9】

第9表：ヘアシャンプー

成分	実施例									
	40	41	42	43	44	45	46	47	48	
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	0.5									
N-ココイルサルコシンイソプロピルエステル		0.5								
N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンイソプロピルエステル			0.5							
N-ラウロイルアラニンイソプロピルエステル				0.5						
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル					0.5					
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル						0.5				
N-硬化牛脂脂肪酸アシルグルタミン酸イソプロピルジエステル							0.5			
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル								0.5		
N-ラウロイルグルタミン酸イソプロピルジエステル									0.5	
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	0.5	0.5				0.5				
ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド			0.5				0.5			
カチオン化セルロース(*1)				0.5			0.5			
カチオン化セルロース(*2)					0.5			0.5		
塩化ジメチルジアリルアンモニウム・アクリルアミド共重合体(*3)					0.5				0.5	
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム(*4)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
過グリセリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
乳酸(80%)	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) ライオン 雷ガードLP

(\*3) ライオン リポフロー

(\*2) ライオン 雷ガードGP

(\*4) 花王 エマル20C

【0110】実施例49～60 (ヘアシャンプー)

【0111】

下記第10表にヘアシャンプーの配合例を12例掲げる。

【表10】

第10表：ヘアシャンプー

成分	実施例											
	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
N-コイルグルタミン酸イソプロピルジエステル	1				1				3			1
N-ラウロイルグルタミン酸イソプロピルジエステル		1				1				0.3		
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル			1				1				0.1	
N-ステアロイルアラニンオクチルエステル				1				1				
ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン(*1)	15					10			5	5	5	15
ヤシ油アルキルベタイン(*2)		15					5	5				
2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン(*3)			15	15								
ヤシ油アルキル-N-カルボキシエチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタインナトリウム(*4)					15							
カチオン化セルローズ(*5)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
グリセリン	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ソルビトール	0.5	0.5	0.5	0.5								
プロピレングリコール					0.5	0.5	0.5	0.5				
ブチレングリコール									0.5	0.5	0.5	0.5
ポリエーテル変性シリコーン(*6)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
N-ヤシ油脂肪酸アシル-L-グルタミン酸トリエタールアミン(*7)						5						
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム(*8)							10	10	10	10	10	
L-グルタミン酸	0.2						3	0.1				
DL-ピロリドンカルボン酸		0.2							3			
乳酸			0.2	0.2						0.1		
クエン酸					2						0.1	
グリコール酸						2						0.1
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

- (\*1) 川研ファインケミカル㈱ ソフトソリンCPB  
 (\*3) 川研ファインケミカル㈱ ソフトソリンCHR  
 (\*5) ライオン㈱ レオガードGP  
 (\*7) 味の素㈱ アミソフトCT-12S

- (\*2) 日本油脂㈱ アノンBF  
 (\*4) 川研ファインケミカル㈱ ソフトソリンNS-A  
 (\*6) 信越化学工業㈱ KF-6012 (粘度1,600cSt)  
 (\*8) 花王㈱ エマール20C

【0112】実施例61～71（ヘアシャンプー）

【0113】

下記第11表にヘアシャンプーの配合例を11例掲げる。

【表11】

第11表：ヘアシャンプー

成分	実施例										
	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	1.0	3.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5				
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル			3.0								
N-コイルアラニンイソプロピルエステル			2.0								
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル								0.5			
N-硬脂酸脂肪酸アシルグルタミン酸イソプロピルジエステル									0.5		
N-コイルグルタミン酸イソプロピルジエステル										0.5	
N-ラウロイルグルタミン酸イソプロピルジエステル											0.5
ラウリル硫酸ナトリウム					10.0				10.0	10.0	10.0
ヤシ油脂肪酸アシル-L-グルタミン酸トリエタールアミン(*1)						20.0	10.0				
ヤシ油脂肪酸アシル-L-グルタミン酸カリウム(*2)	10.0										
ラウリン酸カリウム		10.0								10.0	
ヤシ油脂肪酸サルコシンナトリウム(*3)			10.0								10.0
ポリオキシエチレンアルキルエーテルリン酸(*4)				10.0				10.0			
ヤシ油脂肪酸メチルタウリンナトリウム(*5)					10.0				10.0		
カチオン化セルローズ(*6)							0.3				0.3
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
α-グリセリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
L-グルタミン酸		0.5					0.5	0.5		0.5	0.5
乳酸(90%)	0.5										
DL-ピロリドンカルボン酸					0.5				0.5		
クエン酸				0.5				0.5			
グリコール酸			0.2								
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

- (\*1) 味の素㈱ アミソフトCT-12S  
 (\*3) 東邦化学工業㈱ ネオスコープSCN-35  
 (\*5) 東邦化学工業㈱ ネオスコープCN-30-SF

- (\*2) 味の素㈱ アミソフトC  
 (\*4) 東邦化学工業㈱ フォスファノールBS-610  
 (\*6) ライオン㈱ レオガードGP

【0114】実施例72～81（ヘアシャンプー）

【0115】

下記第12表にヘアシャンプーの配合例を10例掲げる。

【表12】

第12表：ヘアシャンプー

成分	実施例									
	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81
N-ラウロイルザルコシニイソプロピルエステル	1									
N-ココイルザルコシニイソプロピルエステル		1								
N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンイソプロピルエステル			1						0.3	3
N-ラウロイルアラニンイソプロピルエステル				1						
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル					1					
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル						1				
N-硬化牛脂脂肪酸アシルグルタミン酸イソプロピルジエステル							1			
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル								1		
ヤシ脂肪酸アミドプロピルベタイン(*1)	15								15	15
2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン(*2)		15	15	15	15	15	15	15		
カチオン化セルロース(*3)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
グリセリン	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ポリエーテル変性シリコーン(*4)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
硫酸ナトリウム	0.1									
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 川研ファインケミカル㈱ ソフトゾリンCPB

(\*2) 川研ファインケミカル㈱ ソフトゾリンCHB

(\*3) ライオン㈱ レオガードGP

(\*4) 信越化学工業㈱ KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0116】実施例82～88 (ヘアシャンプー)

【0117】

下記第13表にヘアシャンプーの配合例を7例掲げる。

【表13】

第13表：シャンプー

成分	実施例						
	82	83	84	85	86	87	88
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル			1	1	1	0.3	3
N-ステアロイルアラニンオクチルエステル	1	1					
ヤシ脂肪酸アミドプロピルベタイン(*1)	10	20	10	5	10	5	5
カチオン化セルロース(*2)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
グリセリン	2	2	2	2	2	2	2
ポリエーテル変性シリコーン(*3)	1	1	1	1	1	1	1
N-ヤシ脂肪酸アシル-L-グルタミン酸トリエタノールアミン(*4)	1	1	5	10	1	1	1
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム					5	10	10
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 川研ファインケミカル㈱ ソフトゾリンCPB

(\*2) ライオン㈱ レオガードGP

(\*3) 信越化学工業㈱ KF-6012 (粘度1,600cSt)

(\*4) 味の素㈱ アミソフトCT-12S

【0118】実施例89～101 (ヘアトリートメントクリーム)

13例掲げる。

【0119】

下記第14表にヘアトリートメントクリームの配合例を

【表14】

第14表：ヘアトリートメントクリーム

成分	実施例													
	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	
N-ココイルザルコシンイソプロピルエステル	0.5	0.5	0.5	0.1	0.5	0.9	0.5	0.5	0.5					
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル				0.1		0.1			0.1					
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル										0.5	0.5			
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル												0.5	0.5	
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム							0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
塩化ジステアリルジメチルアンモニウム	0.5						0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	
臭化ステアリルトリメチルアンモニウム		0.5						0.5	1	0.2	0.2			
塩化トリ(ポリオキシエチレン)ステアリルアンモニウム			0.5	0.4	1	2				0.5	0.2			
セトステアリルアルコール	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
イソセチルイソバルミデート	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
両性系アクリル樹脂(*1)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
ポリビニルピロリドン(*2)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
加水分解コラーゲン(*3)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
ポリエーテル変性シリコーン(*4)									0.2	0.2		0.2	0.2	
塩化ベヘニルトリメチルアンモニウム(*5)				0.9	0.5	0.1	0.15	0.15	4			0.15	4	
乳酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量		適量	適量			
L-アルギニン									適量			適量	適量	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	

(\*1) 三菱化学㈱ ユカフォーマー-301

(\*2) BASF PVP K-15

(\*3) 鶴成和化成 W-42

(\*4) 信越化学工業㈱ KF-6012 (粘度1,600cSt)

(\*5) ライオン(株) アーカード22-80

【0120】実施例102～105 (リンス)

【0121】

下記第15表にリンスの配合例を4例掲げる。

【表15】

第15表：リンス

成分	実施例			
	102	103	104	105
N-ラウロイルアスパラギン酸 イソプロピルジエステル	1.0			
N-硬化牛脂脂肪酸アシルグルタミン酸 イソプロピルジエステル		1.0		
N-コイルグルタミン酸 イソプロピルジエステル			1.0	
N-ラウロイルグルタミン酸 イソプロピルジエステル				1.0
ポリオキシエチレン(10)セチルエーテル	1.0	1.0	1.0	1.0
ポリオキシエチレン(30)ベヘニルエーテル	2.0	2.0	2.0	2.0
モノステアリン酸ポリエチレングリコール (10E0)				1.0
セトステアリルアルコール	5.0	5.0	5.0	5.0
ミリスチン酸イソセチル	3.0	3.0	3.0	3.0
加水分解コラーゲン(*1)	0.5	0.5	0.5	0.5
メチルポリシロキサン(*2)	1.0	1.0	1.0	1.0
メチルポリシクロシロキサン(*3)	0.5	0.5	0.5	0.5
ポリエーテル変性シリコーン(*4)	0.5	0.5	0.5	0.5
L-グルタミン酸	適量	適量	適量	適量
水	残余	残余	残余	残余

(\*1) 鶴成和化成 W-42

(\*2) 信越化学工業㈱ KF-96A (粘度10,000cSt)

(\*3) 信越化学工業㈱ KF-9937

(\*4) 信越化学工業㈱ KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0122】実施例106～118 (リンス)

【0123】

下記第16表にリンスの配合例を13例掲げる。

【表16】

第16表：リンス

成分	実施例													
	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	
N-ラウロイルアラニン-γ-ブチルエステル												1.0	1.0	
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル	1.0			0.5					0.5	0.5	0.5			
N-ラウロイルアラニンエチルエステル		1.0						1.0		0.1				
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル			1.0	1.0							0.1			
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル			1.0		1.0									
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル			1.0			1.0								
N-ラウロイルアラニンプロピルエステル							1.0							
ポリオキシエチレン(10)セチルエーテル												1.0	5.0	
ポリオキシエチレン(30)ベヘニルエーテル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0			
モノステアリン酸ポリエチレングリコール(10EO)											0.1		1.0	
セトステアリルアルコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	
ミリスチン酸イソセチル	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
アルギニン誘導体(*1)				0.5	1.0	2.0	3.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.5	0.5	
加水分解コラーゲン(*2)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
メチルポリシロキサン(*3)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
メチルポリシクロシロキサン(*4)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
ポリエーテル変性シリコーン(*5)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
L-グルタミン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	

(\*1) 味の素(株) CAE

(\*2) 鶴成和化成 W-42

(\*3) 信越化学工業(株) KF-96A (粘度10,000cSt)

(\*4) 信越化学工業(株) KF-9937

(\*5) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0124】実施例119～122 (ヘアクリーム)

【0125】

下記第17表にヘアクリームの配合例を4例掲げる。

【表17】

第17表：ヘアクリーム

成分	実施例			
	119	120	121	122
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	1			
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル		3	2	1
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1		1	1
ココイルアルギニンエチルエステル-DL-ピロリドンカルボン酸塩(*1)		1		
ラウリン酸アミドプロピルベタイン(*2)	2	1	2	3
イソステアリン酸	2	2	2	2
ミリスチン酸イソセチル	4	4	4	4
ホホバ油	4	4	4	4
水	残余	残余	残余	残余

(\*1) 味の素(株) CAE

(\*2) 川研ファインケミカル(株) ソフトゾリンLPB

【0126】実施例123～131 (ヘアクリーム)

【0127】

下記第18表にヘアクリームの配合例を9例掲げる。

【表18】

第18表：ヘアクリーム

成分	実施例									
	123	124	125	126	127	128	129	130	131	
N-ラウロイルアラニンエチルエステル	0.01	5.0	10.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
ポリオキシエチレン(10)セチルエーテル				1.0	5.0					
ポリオキシエチレン(30)ベヘニルエーテル	1.0	1.0	1.0			2.0				
モノステアリン酸ポリエチレングリコール(10EO)						1.0				
モノステアリン酸ソルビタン							1.0			
トリスチアリン酸ポリオキシエチレン(20)ソルビタン								1.0		
モノラウリン酸ポリオキシエチレン(6)ソルビット									1.0	
セトステアリルアルコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
ミリスチン酸イソセチル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
加水分解コラーゲン(*2)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
両性系アクリル樹脂(*3)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
ポリビニルピロリドン(*4)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
ポリエーテル変性シリコーン(*5)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
L-グルタミン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	

(\*1) 味の素(株) CAE

(\*2) 鶴成和化成 W-42

(\*3) 三菱化学(株) ユカフォーマー-301

(\*4) BASF PVP K-15

(\*5) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0128】実施例132～144 (ヘアクリーム)

下記第19表にヘアクリームの配合例を13例掲げる。

【0129】

【表19】

第19表：ヘアクリーム

成分	実施例													
	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	
N-コイルグルタミン酸イソプロピルジエステル	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル						0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.3	0.3	0.5	
アルギニン誘導体(*1)	0.2	0.2	0.2											
ポリオキシエチレン(10)ベヘニルエーテル						1				1	1	1	1	
ポリオキシエチレン(30)ベヘニルエーテル			1	1	1	1	1	1	1					
モノステアリン酸ポリエチレングリコール(280)			1	1	1	1	1	1	1					
モノステアリン酸ソルビタン	1						1							
トリステアリン酸ポリオキシエチレン(30)ソルビタン		1			1			1						
モノステアリン酸ポリオキシエチレン(15)グリセリル								1						
モノミリスチン酸ヘキサグリセリル	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5	
セトステアリルアルコール	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
イソセチルイソパルミテート	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
加水分解コラーゲン(*2)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
メチルポリシロキサン(*3)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
メチルポリシクロシロキサン(*4)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
ポリエーテル変性シリコーン(*5)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
乳酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量			
L-アルギニン												適量	適量	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	

(\*1) 味の素㈱ CAE

(\*2) 興成和化成 W-42

(\*3) 信越化学工業㈱ KP-96A (粘度10,000cSt)

(\*4) 信越化学工業㈱ KP-9937

(\*5) 信越化学工業㈱ KP-6012 (粘度1,600cSt)

【0130】実施例145～158 (ヘアクリーム)

【0131】

下記第20表にヘアクリームの配合例を14例掲げる。

【表20】

第20表：ヘアクリーム

成分	実施例													
	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158
N-コイルアラニンイソプロピルエステル	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	0.5	0.5
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル											0.5			
ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.3	0.3	0.5	
アルギニン誘導体(*1)										0.5	0.2	0.2		0.5
N-ラウロイル-L-アルギニンイソプロピル・クエン酸塩	1	0.1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
N-ミリスチル-L-アルギニンエチル-DL-PCA塩	1							1	1					
ポリオキシエチレン(20)ポリオキシプロピレン(8)セチルエーテル				1						1				
ポリオキシエチレン(5)ノニルフェニルエーテル		1	1		1						1			
モノステアリン酸プロピレングリコール						1					0.1	1	0.1	
モノステアリン酸グリセリル (自己乳化型)	1	1	1	1			1						1	
モノステアリン酸ポリオキシエチレン(15)グリセリル								1						1
モノミリスチン酸ヘキサグリセリル									1					1
セトステアリルアルコール	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
イソセチルイソパルミテート	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
加水分解コラーゲン(*2)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
メチルポリシロキサン(*3)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
メチルポリシクロシロキサン(*4)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
ポリエーテル変性シリコーン(*5)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
乳酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量			
L-アルギニン												適量	適量	適量
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 味の素㈱ CAE

(\*2) 興成和化成 W-42

(\*3) 信越化学工業㈱ KP-96A (粘度10,000cSt)

(\*4) 信越化学工業㈱ KP-9937

(\*5) 信越化学工業㈱ KP-6012 (粘度1,600cSt)

【0132】実施例159～167 (ヘアクリーム)

【0133】

下記第21表にヘアクリームの配合例を9例掲げる。

【表21】

第21表：ヘアクリーム

成分	実施例									
	159	160	161	162	163	164	165	166	167	
N-ラウロイルアラニンイソプロピルエステル	4	0.1	0.5	0.9		0.5	0.5	0.5	0.5	
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル					0.5					
ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド	1	0.5	0.5		0.5			0.1	0.5	
ステアリン酸ジエチルアミノプロピルアミド				0.5		0.5		0.1		
ステアリン酸ジメチルアミノプロピルアミド							0.5	0.1		
N-ラウロイルアミドプロピル-N',N'-ジメチルアミノオキシド(*1)	0.1	0.9	0.5	0.1	2	2	2	0.2	4	
セトステアリルアルコール	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
イソセチルイソバルミデート	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
加水分解コラーゲン(*2)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
両性系アクリル樹脂(*3)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
ポリビニルピロリドン(*4)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
ポリエーテル変性シリコーン(*5)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
グルタミン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量		
L-アルギニン									適量	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	

(\*1) 川研ファインケミカル(株) ソフトゾリンLAO

(\*2) 錦成和化成 W-42

(\*3) 三菱化学㈱ ユカフォーマー-301

(\*4) BASF PVP K-15

(\*5) 信越化学工業㈱ KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0134】実施例168～176 (ヘアクリーム)

【0135】

下記第22表にヘアクリームの配合例を9例掲げる。

【表22】

第22表：ヘアクリーム

成分	実施例									
	168	169	170	171	172	173	174	175	176	
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
モノステアリン酸ポリエチレングリコール(1080)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
ポリオキシエチレン(20)ポリオキシプロピレン(8)セチルエーテル	1.0									
ポリオキシエチレン(5)ノニルフェニルエーテル		1.0								
モノステアリン酸プロピレングリコール			1.0							
モノステアリン酸グリセリル(自己乳化型)				1.0						
モノステアリン酸ポリオキシエチレン(15)グリセリル					1.0					
モノミリスチン酸ヘキサグリセリル						1.0				
ポリオキシエチレンラノリン(*1)							1.0			
ポリオキシエチレン(20)硬化ヒマシ油								1.0		
セトステアリルアルコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
ミリスチン酸イソセチル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
加水分解コラーゲン(*2)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
両性系アクリル樹脂(*3)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
ポリビニルピロリドン(*4)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
ポリエーテル変性シリコーン(*5)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
乳酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量		
L-アルギニン									適量	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	

(\*1) 日光ケミカルズ(株) TN-10

(\*2) 錦成和化成 W-42

(\*3) 三菱化学㈱ ユカフォーマー-301

(\*4) BASF PVP K-15

(\*5) 信越化学工業㈱ KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0136】実施例177～185 (ヘアクリーム)

【0137】

下記第23表にヘアクリームの配合例を9例掲げる。

【表23】

第23表：ヘアクリーム

成分	実施例									
	177	178	179	180	181	182	183	184	185	
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
モノステアリン酸ポリエチレングリコール(10EO)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
POE(20)ポリオキシプロピレン(8)セチルエーテル	1.0									
ポリオキシエチレン(5)ノニルフェニルエーテル		1.0								
モノステアリン酸プロピレングリコール			1.0							
モノステアリン酸グリセリル(自己乳化型)				1.0						
モノステアリン酸ポリオキシエチレン(15)グリセリル					1.0					
モノミリスチン酸ヘキサグリセリル						1.0				
ポリオキシエチレンラノリン(*1)							1.0			
ポリオキシエチレン(20)硬化ヒマシ油								1.0		
セトステアリアルコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
ミリスチン酸イソセチル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
加水分解コラーゲン(*2)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
両性系アクリル樹脂(*3)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
ポリビニルピロリドン(*4)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
ポリエーテル変性シリコーン(*5)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
乳酸	適量	適量	適量	適量	適量					
L-アルギニン						適量	適量	適量	適量	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 日光ケミカルズ(株) TW-10

(\*3) 三菱化学(株) ユカフォーマー-301

(\*5) 信越化学工業(株) KF-6012(粘度1,600cSt)

(\*2) 鋼成和化成 W-42

(\*4) BASF PVP K-15

【0138】実施例186～196(ボディシャンプー)る。

【0139】

下記第24表にボディシャンプーの配合例を11例掲げ

【表24】

第24表：ボディシャンプー

成分	実施例										
	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	0.1						1	0.1		5	10
N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンイソプロピルエステル		5							1		
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル			10								
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル				1	1	1					
ヤシ油アルキルベタイン(*1)	15	15	15	10	10	10	10	5	5	5	5
N-ヤシ油脂肪酸アシル-L-グルタミン酸カリウム				5				10	10	10	10
ヤシ油脂肪酸カリウム					5						
N-ヤシ油脂肪酸アルギニン塩						5					
N-ヤシ油脂肪酸アシルグリシンカリウム							5				
グリセリン	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 日本油脂(株) アノンBF

【0140】実施例197～209(ボディシャンプー)る。

【0141】

下記第25表にボディシャンプーの配合例を13例掲げ

【表25】



第25表：ボディシャンプー

成分	実施例												
	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209
N-ラウロイルアラニン- $\epsilon$ -ブチルエステル	1.0			0.5								1.0	1.0
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル		1.0										1.0	
N-ラウロイルアラニンエチルエステル			1.0								1.0		
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル				1.0									
N-ラウロイルザルコシンイソプロピルエステル					1.0								
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル							0.3	3.0					
N-ラウロイルアラニプロピルエステル						1.0							
N-ラウロイルアスパラギン酸 イソプロピルジエステル										1.0			
N-硬化牛脂脂肪酸シルグルタミン酸 イソプロピルジエステル											1.0		
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル												1.0	
N-ラウロイルグルタミン酸イソプロピルジエステル													1.0
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム						1.0				1.0			
ヤシ油脂脂肪酸アルギニン塩(*1)	15.0			15.0				15.0	15.0			15.0	15.0
ヤシ油脂脂肪酸シルグリシンカリウム		15.0			15.0		15.0				15.0		
ラウリン酸カリウム	0.5	0.5	15.0			15.0				15.0			
ヤシ油脂脂肪酸ジエタノールアミド	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
濃グリセリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 味の素(株) アミノソープAB-12

(\*2) 味の素(株) アミライトGCK-12

【0142】実施例210～214（メイク落とし）

【0143】

下記第26表にメイク落としの配合例を5例掲げる。

【表26】

第26表：メイク落とし

成分	実施例				
	210	211	212	213	214
N-ラウロイルザルコシンイソプロピルエステル	1.0				
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		1.0	3.0		
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル				1.0	
N-硬化牛脂脂肪酸シルグルタミン酸イソプロピルジエステル					1.0
N-ココイルグルタミン酸トリエタノールアミン	10.8	10.8	10.8	10.8	10.8
ヤシ油脂脂肪酸ジエタノールアミド	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
1,3-ブチレングリコール	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5
POE(25)グリセリルピログルタミン酸イソステアリン酸ジエステル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
DL-ピロリドンカルボン酸ナトリウム	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
ポリオキシエチレン(20)ポリオキシプロピレン(8)セチルエーテル	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5
水	残余	残余	残余	残余	残余

【0144】実施例215～216（日焼け止めローション）

げる。

【0145】

下記第27表に日焼け止めローションの配合例を2例掲

【表27】

第27表：日焼け止めローション

成分	実施例	
	215	216
(油相)		
パラメチキシケイ皮酸2-エチルヘキシル	6.0	6.0
ジバラメトキシケイ皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル	2.0	2.0
オキシベンゾン	3.0	3.0
オレイルオレート	5.0	5.0
メチルポリシロキサン(*1)	3.0	3.0
ワセリン	0.5	0.5
セタノール	1.0	1.0
セスキオレイン酸ソルビタン	0.8	0.8
ポリオキシエチレン(20)オレイルエーテル	1.2	1.2
4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン	2.0	2.0
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	1.0	
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル		1.0
(水相)		
1,3-ブチレングリコール	7.0	7.0
二酸化チタン	5.0	5.0
トリエタノールアミン	1.0	1.0
精製水	残余	残余

(\*1) 信越化学工業株式会社 KF-96A (粘度10,000cSt)

【0146】実施例217～220 (固形石鹸)

【0147】

下記第28表に固形石鹸の配合例を4例掲げる。

【表28】

第28表：固形石鹸

成分	実施例			
	217	218	219	220
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	1.0			
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		0.3	3.0	
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル				3.0
ヤシ油-牛脂石鹸 (90%)	75	75	75	75
ステアリン酸	4.5	4.5	4.5	4.5
ヤシ油脂肪酸	4.5	4.5	4.5	4.5
ポリエチレングリコール (分子量300,000)	1.8	1.8	1.8	1.8
精製水	残余	残余	残余	残余

【0148】実施例221～224 (洗顔料)

【0149】

下記第29表に洗顔料の配合例を4例掲げる。

【表29】

第29表：洗顔料

成分	実施例			
	221	222	223	224
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	1.0			
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		0.3	3.0	
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル				3.0
ミリスチン酸	15	15	15	15
パルミチン酸	12	12	12	12
ステアリン酸	5.0	5.0	5.0	5.0
2-ヘプチル-ウンデカン酸	10	10	10	10
オレイン酸	2.0	2.0	2.0	2.0
濃グリセリン	14	14	14	14
水酸化カリウム	8.5	8.5	8.5	8.5
ポリエチレングリコール (分子量2000)	2.0	2.0	2.0	2.0
香料	適量	適量	適量	適量
pH調整剤	適量	適量	適量	適量
精製水	残余	残余	残余	残余

【0150】実施例225～231 (ハンドソープ)

下記第30表にハンドソープの配合例を7例掲げる。

【0151】

【表30】

第30表：ハンドソープ

成分	実施例						
	225	226	227	228	229	230	231
N-ココイルグルタミン酸	50	50	50	50	50	50	50
トリエタノールアミン液 (30%) (*1)							
ヤシ油脂肪酸コラーゲンペプチド	1.5	2	2	2	2	1	1
ナトリウム水溶液							
N-ラウロイルサルコシン	1						
イソプロピルエステル							
N-ココイルサルコシン		1					
イソプロピルエステル							
N-ラウロイル-N-メチル-			1				
β-アラニンイソプロピルエステル							
N-ラウロイルアラニン				1			
イソプロピルエステル							
N-ココイルアラニン					1		
イソプロピルエステル							
N-ココイルグルタミン酸						1	
イソプロピルジエステル							
N-ラウロイルグルタミン酸							1
イソプロピルジエステル							
N'-ラウロイル-L-リジン (*2)	1	1	1	1	1	1	1
ジステアリン酸エチレングリコール	0.5						
モノステアリン酸エチレングリコール		2					
パルミチン酸モノエタノールアミド			2				
リン酸トリパルミチル				1			
グリチルリチン酸ジカリウム	0.5	0.6					
シソエキスイ水溶液			0.5	0.5			
テルミナリアエキス					0.5	0.5	
ニンジンエキス							0.5
精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 味の素(株) アミソフトCT-12S

(\*2) 味の素(株) アミホープLL

【0152】実施例232～234 (ヘアスプレー)

【0153】

下記第31表にヘアスプレーの配合例を3例掲げる。

【表31】

第31表：ヘアスプレー

成分	実施例		
	232	233	234
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	0.1		
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル		0.01	0.3
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	0.1	0.1	0.1
アクリル樹脂アルカノールアミン液(50%)	5.0	5.0	5.0
ラノリンアルコール	0.4	0.4	0.4
ポリオキシエチレン(20)オレイルエーテル	0.04	0.04	0.04
エタノール	残余	残余	残余
イソブタン	35	35	35
ジメチルエーテル	25	25	25

【0154】実施例235～237 (ヘアフォーム)

【0155】

下記第32表にヘアフォームの配合例を3例掲げる。

【表32】

第32表：ヘアフォーム

成分	実施例		
	235	236	237
原液			
N-ラウロイルザルコシニイソプロピルエステル	0.1		
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル		0.01	0.3
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	0.1	0.1	0.1
アクリル樹脂アルカノールアミン液(50%)	7.0	7.0	7.0
流動パラフィン	4.0	4.0	4.0
ポリオキシエチレン(10)硬化ヒマシ油	0.04	0.04	0.04
グリセリン	3.0	3.0	3.0
防腐剤	0.1	0.1	0.1
香料	0.1	0.1	0.1
エタノール	15	15	15
水	残余	残余	残余
充填			
原液	90	90	90
液化石油ガス	10	10	10

【0156】実施例238～239（ヘアカラー）  
下記第33表にヘアカラーの配合例を2例掲げる。

【0157】  
【表33】

第33表：ヘアカラー

成分	実施例	
	238	239
N-ラウロイルグルタミン酸イソプロピルジエステル	1	
N-ラウロイルグルタミン酸-セ-ブチルジエステル		1
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1	1
ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン(*1)	2	2
パラフェニレンジアミン	2	2
レゾルシン	1	1
ポリオキシエチレン(10)オレイルエーテル	7	7
イソプロパノール	10	10
強アンモニア水	適量	適量
水	残余	残余

【0158】実施例240～243（リンス）  
下記第34表にリンスの配合例を4例掲げる。

【0159】  
【表34】

第34表：リンス

成分	実施例			
	240	241	242	243
成分AまたはB				
N-ラウロイルザルコシンイソプロピルエステル				2.0
N-ラウロイル-N-メチル- $\beta$ -アラニンイソプロピルエステル			1.0	
N-ラウロイルアラニンイソプロピルエステル		1.0		
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル	1.0			
成分C				
N-(2-ヒドロキシ-3-ドデシルオキシ)プロピル-L-アルギニン塩酸塩	1.5			0.6
N-(2-ヒドロキシ-3-ドデシルオキシ)プロピル-L-アルギニン乳酸塩		0.6	0.6	
その他の成分				
ミリスチン酸イソセチル	2.0	2.0	2.0	2.0
ホホバ油	0.5	0.5	0.5	0.5
セトステアリルアルコール	4.0	4.0	4.0	4.0
10%乳酸	1.0	1.0	1.0	1.0
L-グルタミン酸ナトリウム	0.5	0.5	0.5	0.5
ペパーミントエキス				0.01
L-メントール				0.15
1%青色一号				0.10
ジエチレントリアミン五酢酸五ナトリウム液(40%)				0.05
エチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸三ナトリウム	0.05	0.05	0.05	0.05
塩化ベヘニルトリメチルアンモニウム	1.2	1.2	1.2	1.2
香料	適量	適量	適量	適量
メチルパラベン	0.1	0.1	0.1	0.1
水	残余	残余	残余	残余

【0160】実施例244～248（乳液）

【0161】

下記第35表に乳液の配合例を5例掲げる。

【表35】

第35表：乳液

成分	実施例				
	244	245	246	247	248
成分AまたはB					
N-ラウロイルザルコシンイソプロピルエステル	1.0			1.0	1.0
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		1.0			
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル			1.0		
成分C					
N-(2-ヒドロキシ-3-ドデシルオキシ)プロピル-L-アルギニン塩酸塩	1.0	1.0	1.0	1.0	
N-(2-ヒドロキシ-3-オクタデシルオキシ)プロピル-L-アルギニン乳酸塩					1.0
その他の成分					
ポリエーテル変性シリコーン(*1)	0.1	0.1	0.5	0.1	0.1
ポリエーテル変性シリコーン(*2)	0.1	0.01			
モノステアリン酸グリセリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
モノラウリン酸ポリオキシエチレン(20)ソルビタン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
固形パラフィン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ミツロウ	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
ワセリン	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
流動パラフィン	41.0	41.0	41.0	41.0	41.0
ローズマリー油	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
1,3-ブチレングリコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
水	残余	残余	残余	残余	残余

(\*1) 信越化学工業㈱ KF-6012（粘度1,600cSt）

(\*2) 信越化学工業㈱ KF-352A

【0162】実施例249（ファンデーション）

【0163】

下記第36表にファンデーションの配合例を掲げる。

【表36】

第36表：ファンデーション

成分	実施例249
成分AまたはB	
N-ラウロイルザルコシンイソプロピルエステル	4
成分C	
N, N-ビス(2-ヒドロキシ-3-オデシルオキシ) プロピル-L-アルギニン塩酸塩	1
その他の成分	
タルク	36.9
セリサイト	30
マイカ	10
ステアリン酸マグネシウム	1
酸化チタン	5
N-ラウロイルリジン	5
ベンガラ	0.8
黄酸化鉄	1.2
黒酸化鉄	0.1
オクチルドデカノール	1
シリコーン	4

【0164】実施例250（粉おしろい）  
下記第37表に粉おしろいの配合例を掲げる。

【0165】  
【表37】

第37表：粉おしろい

成分	実施例250
成分AまたはB	
N-ラウロイルザルコシンブチルエステル	1.0
成分C	
Nε-(2-ヒドロキシ-3-オデシルオキシ) プロピル-L-リジン塩酸塩	1.0
その他の成分	
タルク	73.0
カオリン	8.0
炭酸カルシウム（軽質）	3.0
微粒子酸化チタン	6.0
ステアリン酸マグネシウム	5.0
セリサイト	3.0

【0166】実施例251（アイライナー）  
下記第38表にアイライナーの配合例を掲げる。

【0167】  
【表38】

第38表：アイライナー

成分	実施例251
成分AまたはB	
N-ラウロイルグルタミン酸イソプロピルエステル	3.0
成分C	
N-(2-ヒドロキシ-3-テトラデシルオキシ) プロピル-L-アルギニン・DL-ピロリドン カルボン酸塩	1.0
その他の成分	
赤色401号	35.0
タルク	10.0
ステアリン酸亜鉛	4.0
ステアリン酸	15.0
ミツロウ	3.0
マイクロクリスタリンワックス	5.0
硬化油	3.0
イソステアリン酸セチル	5.0
モクロウ	16.0

【0168】実施例252（アイシャドー）  
下記第39表にアイシャドーの配合例を掲げる。

【0169】  
【表39】

第39表：アイシャドー

成分	実施例252
成分AまたはB	
N-コイルアラニンイソプロピルエステル	9.0
成分C	
N-(2-ヒドロキシドデシル)- L-アルギニン塩酸塩	1.0
その他の成分	
ミツロウ	5.0
カルナウバロウ	4.0
キャンデリラロウ	6.0
セレシン	10.0
マイクロクリスタリンワックス	8.0
ヒマシ油	30.0
イソステアリン酸ヘキサデシル	5.0
液状ラノリン	3.0
モノオレイン酸ソルビタン	1.0
針状酸化チタン	3.0
タルク	5.0
青色1号	10.0

【0170】実施例253（口紅）

【0171】

下記第40表に口紅の配合例を掲げる。

【表40】

第40表：口紅

成分	実施例253
成分AまたはB	
N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンイソプロピル	3.0
成分C	
N-(2-ヒドロキシ-3-ドデシルオキシ) プロピル-L-アルギニン塩酸塩	1.0
その他の成分	
ミツロウ	7.0
キャンデリラロウ	7.0
カルナウバロウ	2.0
セレシン	10.0
マイクロクリスタリンワックス	6.0
ヒマシ油	45.0
ラノリン	8.0
リシノール酸オクチルドデシル	2.0
棒状酸化チタン	3.0
赤色202号	8.0

【0172】実施例254（サンスクリーン下地W/O  
クリーム）

合例を掲げる。

【0173】

下記第41表にサンスクリーン下地W/Oクリームの配

【表41】

第41表：サンスクリーン下地W/Oクリーム

成分	実施例254
成分AまたはB	
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	3.2
成分C	
N-(2-ヒドロキシ-3-ヘキサデシルオキシ) プロピル-L-アルギニン塩酸塩	0.5
その他の成分	
環状シリコン5量体	8
イソヘラルゴン酸オクチル	5
ジメトキシベンジリデンジオキソイミダゾリン プロピオン酸2-エチルヘキシル	0.8
d-α酢酸トコフェロール	0.1
ポリエーテル変性シリコーン	1.5
ジイソステアリン酸グリセリル	1.3
MgSO <sub>4</sub>	1.5
PCAソーダ(50%水溶液)	4
グリチルリチン酸ジカリウム	0.2
1,3-ブチレングリコール	2
ジプロピレングリコール	6
フェノキシエタノール	0.3
精製水	残余

【0174】実施例255（化粧水）

【0175】

下記第42表に化粧水の配合例を掲げる。

【表42】

第42表：化粧水

成分	実施例255
成分AまたはB	
N-コイルロイシンプロピルエステル	0.02
成分C	
N-(2-ヒドロキシ-3-ドデシルオキシ) プロピル-L-アルギニン乳酸塩	0.1
その他の成分	
イソステアリン酸POE硬化ヒマシ油(50E.0)	0.1
POEコレステロールエーテル	0.01
N-コイルロイシンプロピルエステル	0.02
酢酸d-αトコフェロール	0.01
メチルパラベン	0.15
ジプロピレングリコール	6
1,3-ブチレングリコール	3.5
POEメチルグリコシド	0.5
リン酸二水素ナトリウム/2H <sub>2</sub> O	0.09
リン酸一水素ナトリウム/12H <sub>2</sub> O	0.04
γ-ポリグルタミン酸ナトリウム水溶液(MW:20万) (5%aq.)	1
精製水	残余

【0176】実施例256（日焼け止めローション）

【0177】

下記第43表に日焼け止めローションの配合例を掲げる。

【表43】



第43表：日焼け止めローション

成分	実施例256
成分AまたはB	
N-ラウロイルグルタミン酸イソプロピルジエステル	1.0
成分C	
N-(2-ヒドロキシ-3-オドデシルオキシ) プロピル-L-アルギニン塩酸塩	1.0
その他の成分	
パラメチキシケイ皮酸2-エチルヘキシル	6.0
ジパラメチキシケイ皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸 グリセリル	2.0
オキシベンゾン	3.0
オレイルオレート	5.0
メチルポリシロキサン(*1)	3.0
ワセリン	0.5
セタノール	1.0
セスキオレイン酸ソルビタン	0.8
ポリオキシエチレン(20)オレイルエーテル	1.2
4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン	2.0
1,3-ブチレングリコール	7.0
二酸化チタン	5.0
トリエタノールアミン	1.0
精製水	残余

(\*1) 信越化学工業㈱ KF-96A (粘度10,000cSt)

【0178】実施例257 (メイク落とし)

下記第44表にメイク落としの配合例を掲げる。

【0179】

【表44】

第44表：メイク落とし

成分	実施例257
成分AまたはB	
N-ラウロイルザルコシンプチルエステル	1.0
成分C	
N-(2-ヒドロキシ-3-テトラデシルオキシ) プロピル-L-アルギニン・DL-ピロリドン カルボン酸塩	1.0
その他の成分	
N-コイルグルタミン酸トリエタノールアミン	10.8
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	2.0
1,3-ブチレングリコール	4.5
POE(25)グリセリルピログルタミン酸 イソステアリン酸ジエステル	2.0
DL-ピロリドンカルボン酸ナトリウム	0.5
ポリオキシエチレン(20)ポリオキシプロピレン(8) セチルエーテル	4.5
水	残余

【0180】実施例258 (ヘアシャンプー)

下記第45表にヘアシャンプーの配合例を掲げる。

【0181】

【表45】

第45表：ヘアシャンプー

成分	実施例258
成分AまたはB	
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル	0.5
成分C	
Nε-(2-ヒドロキシ-3-オドデシルオキシ) プロピル-L-リジン塩酸塩	0.5
その他の成分	
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	10
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	3.0
濃グリセリン	2.0
乳酸(90%)	適量
水	残余

【0182】実施例259 (スキนครリーム)

下記第46表にスキนครリームの配合例を掲げる。

【0183】

【表46】

第46表：スキนครリーム

成分	実施例259
成分AまたはB	
N-ステアロイルアラニンオクチルエステル	1
成分C	
N-(2-ヒドロキシ-3-オドデシルオキシ) プロピル-L-アルギニン塩酸塩	2
その他の成分	
ソルビタンモノステアレート	1.8
ポリオキシエチレン(20)ソルビタン モノオレート	2.8
ポリオキシエチレン(40)ラノリンアルコール	0.2
流動パラフィン	36
セタノール	4.5
N'-ラウロイル-L-リジン	1
ジグリセリン	0.5
精製水	残余

【0184】実施例260 (ボディシャンプー)

下記第47表にボディシャンプーの配合例を掲げる。

【0185】

【表47】

第47表：ボディシャンプー

成分	実施例260
成分AまたはB	
N-ミリストイルグリシンオクテイルエステル	1.0
成分C	
N, N-ビス(2-ヒドロキシ-3- ドデシルオキシ)プロピル-L-アルギニン塩酸塩	1.0
その他の成分	
ヤシ油脂肪酸アルギニン塩(*1)	15.0
ヤシ油脂肪酸アシルグリシンカリウム	1.0
ラウリン酸カリウム	0.5
ヤシ油脂肪酸シエタノールアミド	3.0
濃グリセリン	2.0
水	残余

(\*1) 味の素(株) アミノソーブAR-12

【0186】実施例261 (ハンドソープ)

下記第48表にハンドソープの配合例を掲げる。

【0187】

【表48】

第48表：ハンドソープ

成分	実施例281
成分AまたはB	
N-ココイルサルコシンイソプロピルエステル	1
成分C	
N-(2-ヒドロキシ-3-ドデシルオキシ) プロピル-L-アルギニン塩酸塩	1
その他の成分	
N-ココイルグルタミン酸 トリエタノールアミン液(30%)(*1)	50
ヤシ油脂肪酸コラーゲンペプチドナトリウム 水溶液	1.5
N'-ラウロイル-L-リジン(*2)	1
ジステアリン酸エチレングリコール	0.5
リン酸トリパルミチル	0.2
グリチルリチン酸ジカリウム	0.5
精製水	残余

(\*1) 味の素(株) アミソフトCT-12S

(\*2) 味の素(株) アミホープLL

【0188】

【発明の効果】本発明は、頭髮に対して使用時および乾燥後にべたつき感がなく、頭髮をなめらかにし、乾燥後の櫛通り性等のコンディショニング効果に優れ、また皮膚に対して、使用時および使用後のべたつき感、つっぱり感がないのに加えて、すべり、のび、なじみ、およびなめらかさの良好な化粧料組成物を提供する。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7

識別記号

F I

テーマコード(参考)

A 6 1 K 7/42

A 6 1 K 7/42

7/48

7/48

7/50

7/50

C 1 1 D 1/10

C 1 1 D 1/10